

Canon

**SPEEDLITE
EL-1
(Ver.2)**



[詳細ガイド](#)

JA

目次

はじめに.....	5
補足情報.....	6
対応アクセサリー.....	7
使用説明書について.....	8
このガイドについて.....	9
安全上のご注意.....	11
各部の名称.....	13
撮影前の準備と簡単な撮影.....	28
バッテリーを充電する.....	29
バッテリーを入れる.....	32
カメラに取り付ける／取り外す.....	34
電源を入れる.....	36
全自動ストロボ撮影.....	41
撮影モード別E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影.....	43
バッテリー情報を確認する.....	48
ストロボ撮影応用編.....	50
調光補正.....	51
FEB.....	53
FEロック.....	55
ハイスピードシンクロ.....	57
後幕シンクロ.....	59
パウンス.....	61
照射角の設定.....	68
マニュアル発光.....	72
マルチ発光.....	79
ストロボ外部調光.....	83
連写優先モード.....	88
モデリングランプについて.....	89
モデリング発光.....	90
カラーフィルター.....	91

ストロボ設定初期化	93
カメラ操作によるストロボの機能設定	95
カメラのメニュー画面からのストロボ制御	96
電波通信ワイヤレスストロボ撮影	103
電波通信ワイヤレスストロボ撮影	104
電波通信ワイヤレス設定	111
レシーバーを1灯使った自動調光撮影	124
レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影	132
レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影	135
発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	140
グループごとに発光モードを設定した撮影	144
レシーバーからのテスト発光／モデリング発光	149
レシーバーからのリモートトレーナー	151
電波通信による連動撮影	153
光通信ワイヤレスストロボ撮影	158
光通信ワイヤレスストロボ撮影	159
光通信ワイヤレス設定	163
レシーバーを1灯使った自動調光撮影	172
レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影	180
レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影	183
発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	187
レシーバーで設定するマニュアル発光／マルチ発光	190
ストロボのカスタマイズ	193
カスタム／パーソナル機能の設定方法	194
カスタム機能で変更できる内容	201
パーソナル機能で変更できる内容	205
資料	212
温度上昇による発光制限について	213
故障かな？と思ったら	217
主な仕様	223
アクセサリーについて	231
修理対応について	232

電波通信ワイヤレス機能について..... 233

はじめに

キヤノンスピードライト EL-1 (Ver.2) は、E-TTL II / E-TTL 自動調光に対応したEOS用外部ストロボです。カメラのアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンストロボ（通常撮影）、電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影時のセンター／レシーバーストロボの機能を備えるとともに、EOS-1Dシリーズのカメラと同等の防塵・防滴性能を備えています。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに安全上のご注意をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

ご使用になる前に、この「詳細ガイド」とカメラの詳細ガイドをお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

*この「詳細ガイド」では、EOSデジタルカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

EOSフィルムカメラとの組み合わせについて

E-TTL II / E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合せたときは、自動調光での撮影を行うことができます。なお、TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合せたときは、自動調光での撮影はできません。

連続発光時のご注意

ストロボを使用した連続撮影や、マルチ発光撮影、モデリング発光等では、ストロボが連続して発光します。ストロボの連続発光（明るい色の壁などからの反射光を含みます）による視覚刺激によって、発作などの症状が出る場合があります。症状が出た場合は、ストロボの使用を直ちに中止してください。

- [補足情報](#)
- [対応アクセサリー](#)
- [使用説明書について](#)
- [このガイドについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [各部の名称](#)

補足情報

ストロボに関する補足情報については、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H001/>



対応アクセサリー

最新の対応カメラ、アクセサリーについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



使用説明書について



製品に付属している使用説明書は、ストロボ撮影の基本的な操作について説明しています。

● 詳細ガイド

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。

最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

<https://cam.start.canon/A012/>



このガイドについて

☑ [本文中の絵文字について](#)

☑ [操作説明の前提について](#)

本文中の絵文字について

⟨◎⟩	選択ダイヤルを示しています。
◎12/◎16	操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態が約12秒／16秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、ストロボで使われている絵文字を使用しています。

☒	関連トピックへのリンクを示しています。
❗	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
▣	補足説明や補足事項を記載しています。
応用	ページタイトル右の [応用] は、カメラの撮影モードが ⟨Fv⟩ ⟨P⟩ ⟨Tv⟩ ⟨Av⟩ ⟨B⟩ ⟨M⟩ (応用撮影ゾーン) のときに機能することを示しています。
?	困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提について

- ストロボとカメラの電源が入っていることを前提に説明しています（）。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- 機能を設定するときは、ジョイステイックを上下左右に押すか、〈○〉を回して選ぶことができます。
- 機能の設定を終了するときは、〈○〉ボタンを押します。
- ストロボのカスタム機能／パーソナル機能、カメラのメニュー機能／カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
カバーを飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
 - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
 - 指定外の電源は使わない。
 - 分解や改造をしない。
 - 強い衝撃や振動を与えない。
 - 破損したときは、内部に触れない。
 - 煙が出てる、異臭があるなどの異常が発生したときは使わない。
 - アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
 - 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
 - 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
- 感電の原因となります。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 液漏れしたものは使わない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。

液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- バッテリーチャージャーを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
 - 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
 - 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
 - 電源に長時間つないだままにしない。
 - 5°C~40°Cの範囲外で充電しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくとも、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。
- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となるおそれがあります。
- ベットの近くにバッテリーを置かない。
バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により故障や火災の原因となることがあります。

△注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

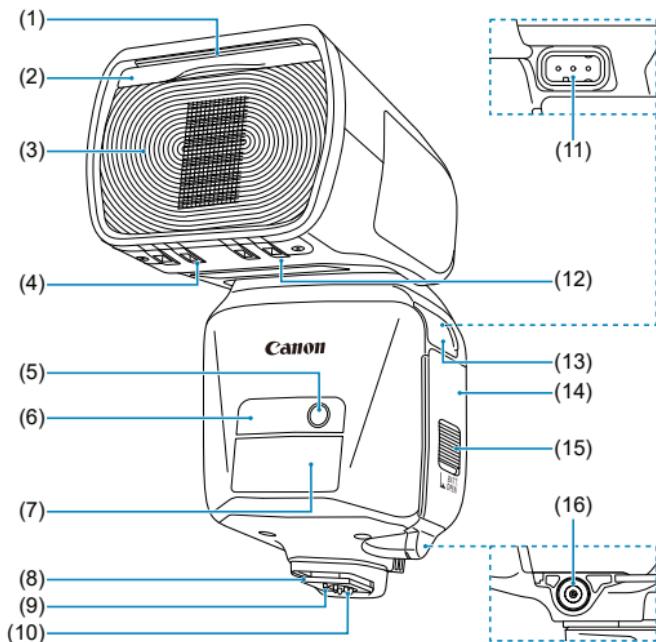
- ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触るとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。

各部の名称

図 表示パネル

図 バッテリーチャージャー LC-E6

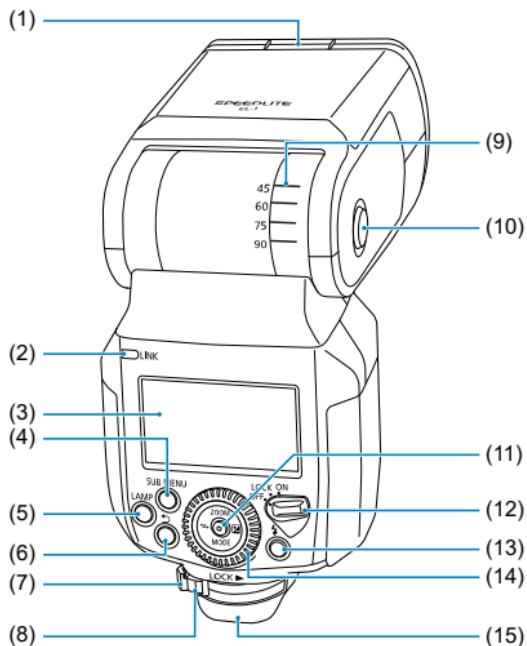
図 付属アクセサリー



- (1) キャッチライトパネル（収納状態）
 - (2) ワイドパネル（収納状態）
 - (3) 発光部
 - (4) カラーフィルター検出部
 - (5) 外部調光受光部
 - (6) 光通信ワイヤレス受信部
 - (7) AF補助光投光部
 - (8) 取り付け脚
 - (9) 取り付け脚ロックピン
 - (10) 接点
 - (11) 外部電源端子
 - (12) パウンスアダプター検出部
 - (13) 端子カバー
 - (14) バッテリー収納部ふた
 - (15) バッテリー収納部ふたロック
 - (16) シンクロ端子

参考

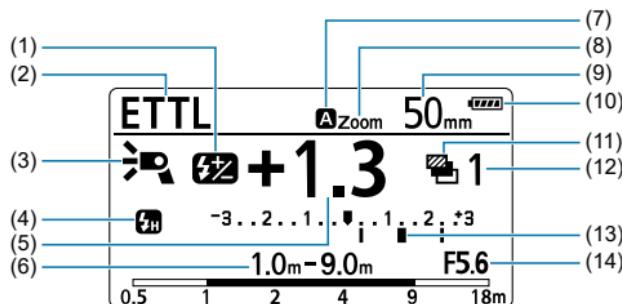
- リモートトレーリーズ端子は備えていません（トレーリーズケーブル SR-N3は使用できません）。



-
- (1) バウンスアダプター／カラーフィルター取り付け部
 - (2) 〈LINK〉電波通信確認ランプ
 - (3) 表示パネル
 - (4) 〈SUB MENU〉サブメニューボタン
 - (5) 〈LAMP〉LAMPボタン
 - (6) 〈➡」戻るボタン
 - (7) 取り付け脚ロックレバー
 - (8) ロック解除ボタン
 - (9) バウンス角度指標
 - (10) バウンスロック解除ボタン
 - (11) ジョイスティック
 〈ZOOM〉ズーム
 〈MODE〉発光モード
 〈➡➡」ワイヤレス／運動撮影設定
 〈■」調光補正／発光量設定
 - (12) 電源スイッチ
 〈ON〉電源入
 〈LOCK〉ボタン／ダイヤルロック（電源入）
 〈OFF〉電源切
 - (13) 〈⚡〉充電ランプ／テスト発光ボタン
 - (14) 〈◎〉選択ダイヤル
 - (15) 防塵・防滴アダプター
-

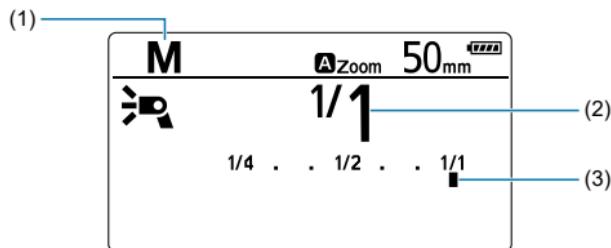
表示パネル

E-TTL II / E-TTL自動調光 (回), 連写優先モード (回)



-
- (1) <> 調光補正
-
- (2) <**E-TTL**> E-TTL II / E-TTL自動調光
<**CSP**> 連写優先モード
-
- (3) <> 標準
<> ガイドナンバー優先
<> 配光優先
<> 上パウンス
<> 下パウンス
<> パウンスアダプター装着
<> カラーフィルター装着
<> 温度上昇（発光制限）
<> モデリングランプ点灯
-
- (4) <> 先幕シンクロ（通常撮影）
<> 後幕シンクロ
<> ハイスピードシンクロ
-
- (5) 調光補正量
-
- (6) 調光運動範囲／撮影距離
<> メートル表示
<> フィート表示
-
- (7) <> 充電表示
<> 自動設定
<> 手動設定
-
- (8) <> ズーム表示
<> ワイドパネル+パウンス警告
<> 照射角外警告
-
- (9) 照射角（焦点距離）
-
- (10) バッテリー残量表示
-
- (11) <> FEB
-
- (12) FEB順序
-
- (13) 調光レベル
-
- (14) <> 絞り数値
-

マニュアル発光 (図)



(1) 〈M〉 マニュアル発光

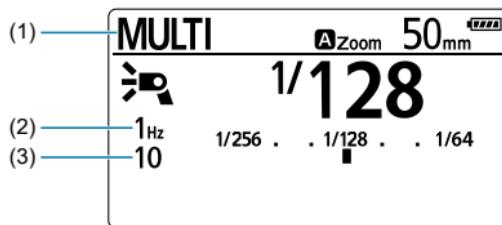
(2) マニュアル発光量

(3) マニュアル発光レベル

参考

- 画面は表示例です。設定に応じた部分のみ表示されます。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (図)。

マルチ発光 (図)

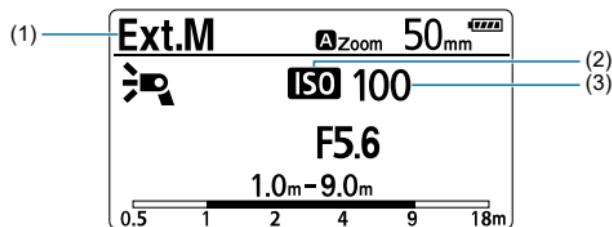


(1) 〈MULTI〉 マルチ発光

(2) 発光周波数

(3) 発光回数

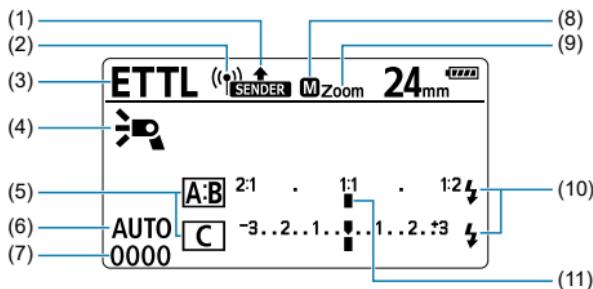
外部調光オート／マニュアル (②)



-
- (1) 〈Ext.A〉 外部調光オート
〈Ext.M〉 外部調光マニュアル
 - (2) 〈ISO〉 ISO表示
 - (3) ISO感度
-

電波通信ワイヤレス撮影／光通信ワイヤレス撮影 (回線 / 回線)

- センダーストロボ



- (1) < **SENDER** > センダー設定
< **SUB SENDER** > サブセンダー設定*1
 - (2) < **WP** > 電波通信ワイヤレス
< **AN** > 光通信ワイヤレス
 - (3) 発光モード
 - < **ETTL** > E-TTL II / E-TTL自動調光
 - < **M** > マニュアル発光
 - < **MULTI** > マルチ発光
 - < **Gr** > グループ発光*1

- (4) 〈〉 センダー発光ON
〈〉 センダー発光OFF

- ### (5) 発光グループ制御

- (6) 〈Ch〉 通信チャンネル
〈AUTO〉 通信チャンネル自動設定*1

- (7) 電波通信ID*1

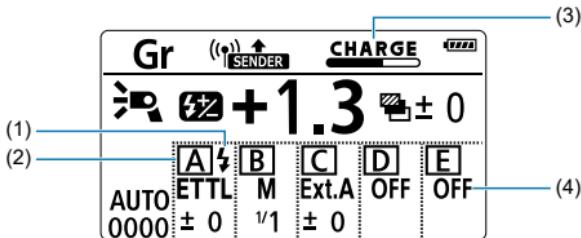
- #### (8) <CHARGE> サンダー／レシーバー充電表示

- #### (9) 同調速度警告*¹

- (10) (t) リードー発電完了

- (11) 水母

*1：(●) 電波通信口に対するもの



(1) <⚡> レシーバー充電完了*1

(2) 発光グループ制御

(3) センダー／レシーバー充電表示

(4) 各グループ発光モード*2

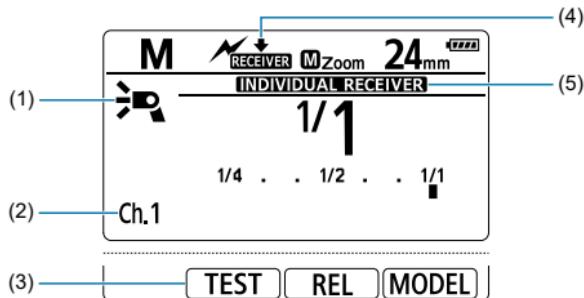
*1 : <((P))> 電波通信ワイヤレスのみ

*2 : <Gr> グループ発光のみ

参考

- 電波通信ワイヤレス撮影時は、センダーとレシーバーの充電が完了すると <**CHARGE**> が消えます。
- <**Gr**> グループ発光時は、発光モードを <**ETTL**> <**M**> <**Ext.A**> <**OFF**> から選択できます。

● レシーバーストロボ

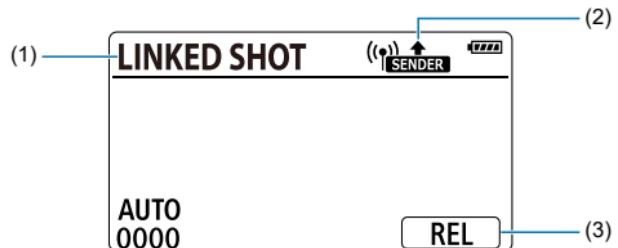


- (1) <  > レシーバー
- (2) < Ch> 通信チャンネル
- (3) < TEST > テスト発光*¹
 < REL > リモートレリーズ*¹
 < MODEL > モデリング発光*¹
- (4) < RECEIVER > レシーバー設定
- (5) < INDIVIDUAL RECEIVER > 単独レシーバー*²

* 1 : <  > 電波通信ワイヤレスのみ

* 2 : <  > 光通信ワイヤレスのみ

電波通信：連動撮影（）



(1) <**LINKED SHOT**> 連動撮影

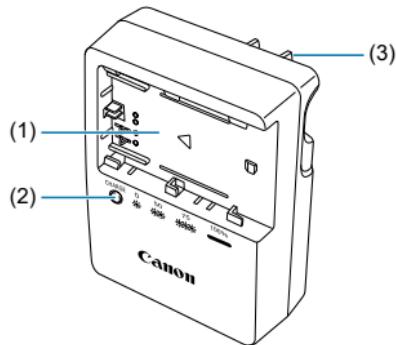
(2) <**SENDER**> センダー設定
<**RECEIVER**> レシーバー設定

(3) <**REL**> レリーズ*1

* 1 : <**SENDER**> センダー設定のみ

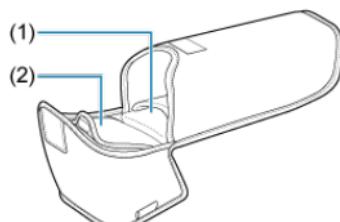
バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-ELの充電器です。

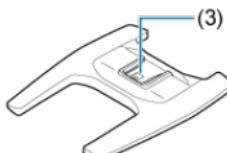


-
- (1) バッテリー取り付け部
 - (2) 充電ランプ
 - (3) 電源プラグ
-

付属アクセサリー



ストロボケース
(1) ミニスタンド収納部
(2) バウンスアダプター／カラーフィルター収納部



ミニスタンド
(3) 取り付け部



バウンスアダプター SBA-EL



カラーフィルター SCF-ELOR1



カラーフィルター SCF-ELOR2



バッテリーチャージャー LC-E6



バッテリーパック LP-EL

撮影前の準備と簡単な撮影

この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

① 注意

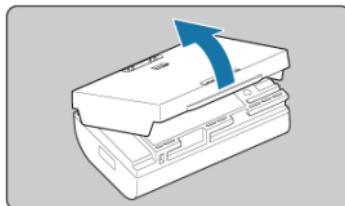
連続発光に関するご注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続フル発光は約55回までにしてください。記載した回数の連続フル発光を行ったときは、10分以上休止してください。ファンを停止状態にした場合は、連続フル発光回数は少くなります。
- 上記回数の連続フル発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限レベル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。そのときは50分以上休止してください。
- 詳しい内容については、[温度上昇による発光制限について](#)を参照してください。

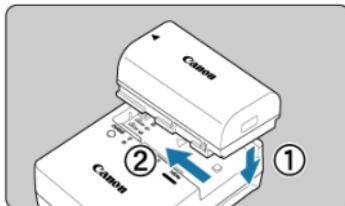
- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーを入れる](#)
- [カメラに取り付ける／取り外す](#)
- [電源を入れる](#)
- [全自動ストロボ撮影](#)
- [撮影モード別E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影](#)
- [バッテリー情報を確認する](#)

バッテリーを充電する

1. 付属の保護カバーを外す

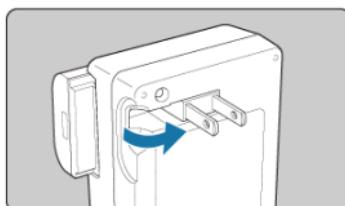


2. バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける



● 取り外しは逆の手順で行います。

3. 電源プラグを起こす



4. 電源プラグをコンセントに差し込む



● 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0~49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50~74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

- 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23°C）で約2時間10分です。なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5°C～+10°C）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

● 購入時、バッテリーは充電されていません

充電してからお使いください。

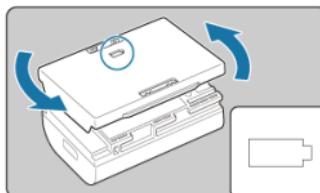
● 充電は使用する当日か前日にする

充電して保管していても、自然放電により少しづつバッテリーの容量が少なくなっています。

● 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く

● 保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにすることができます

付属の保護カバーは、取り付ける向きによって保護カバーの窓（□）からのぞく色を変えることができます。充電済み、使用済みの色を決めておくと、バッテリーの状態を判断できるようになります。



● ストロボを使わないとときはバッテリーを取り出しておく

バッテリーを長期間ストロボに入れたままにしておくと、微少の電流が流れ過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● 充電器は海外でも使うことができる

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です

バッテリーの劣化度を確認した上で、新しいバッテリーをお買い求めください。

① 注意

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量表示が90%程度より多い場合、充電は行われません。

■ 参考

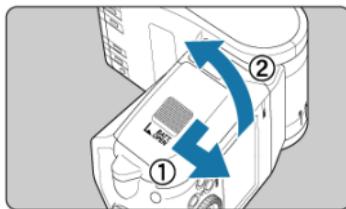
バッテリーの保管について

- 風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- バッテリーをストロボから取り出した状態でも、バッテリー内部では微小の電流が流れるため、長期間放置すると過放電状態になり、充電しても使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーを長期間保管するときは、1年に1回程度、50%程度を目安に充電してから保管してください。

バッテリーを入れる

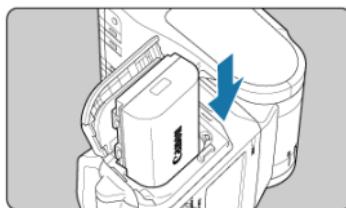
電源にはバッテリーパック LP-ELを使用します。

1. ふたを開ける



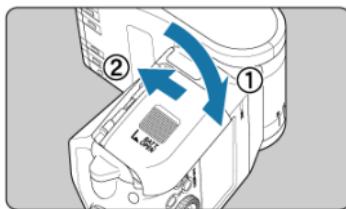
- ロックレバーを下にスライドさせながら、ふたを右にスライドさせて、バッテリー収納部ふたを開きます。

2. バッテリーを入れる



- 表示にしたがって、バッテリー接点の方から入れます。

3. ふたを閉める



- バッテリー収納部ふたを閉じて、左にスライドさせます。
- 「カチッ」と音がして、バッテリー収納部ふたがロックされます。

発光間隔と発光回数

EL-1 (Ver.2) 単体

発光間隔		発光回数
クイック発光	通常発光	
約0.1~0.8秒	約0.1~0.9秒	約340~2380回

* クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です（）。

△ 注意

- **連続発光を行ったときは発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近に触れないでください。**
ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近に触れないでください。発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。
- **長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。**
熱いと感じなくとも、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。

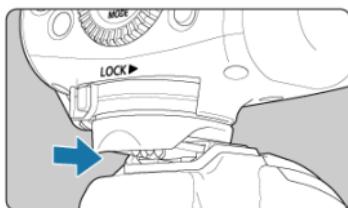


参考

- <>が表示されたときや、充電中に表示パネルの表示が消えてしまうときは、バッテリーを充電してください。

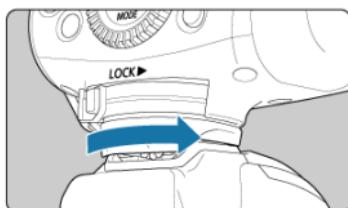
カメラに取り付ける／取り外す

1. 取り付ける



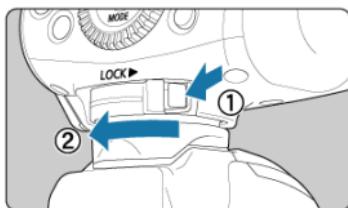
- ストロボの取り付け脚がアクセサリーシューの奥に突き当たるまで、差し込みます。

2. 固定する



- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- 「カチッ」と音がしてロックされます。

3. 取り外す



- ロック解除ボタンを押しながら、ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから取り外します。

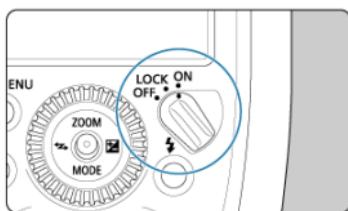
 注意

- ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる

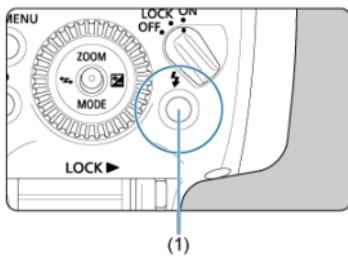
- ☑ [クイック発光機能について](#)
- ☑ [オートパワーオフ機能について](#)
- ☑ [ロック機能について](#)
- ☑ [表示パネル照明について](#)

1. 電源スイッチを〈ON〉にする



- 充電が始まります。
- 充電中は表示パネルに〈CHARGE〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えて電子音が鳴ります。

2. 充電を確認する



- 充電ランプの状態が、**消灯→赤色（点滅）（クイック発光可能）→赤色（点灯）（フル充電）**の順に変わります。
- テスト発光ボタン（充電ランプ）(1)を押すと、テスト発光を行うことができます。

① 注意

- カメラ側で測光タイマーが作動しているときは、テスト発光できません。

② 参考

- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。
- 充電完了時の電子音を鳴らさないようにすることができます（[P.Fn-06](#)）。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが赤色の点滅状態で（フル充電前に）ストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードの設定に関わらず機能します。発光量はフル充電時の約1/2～1/3になりますが、発光間隔を短くしたいときに有効です。
マニュアル発光時は、発光量が1/4～1/8192に設定されているときに機能します。なお、マルチ発光、ワイヤレスストロボ撮影時はクイック発光できません。

① 注意

- 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

② 参考

- 電波通信ワイヤレスセンター設定時の〈**CHARGE**〉の表示については、「[表示パネル照明について](#)」を参照してください。
- クイック発光を禁止することができます（[P.Fn-02](#)）。

オートパワーオフ機能について

バッテリーの消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

なお、電波通信ワイヤレス撮影時のセンダーストロボ（）、連動撮影（）のときは、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

参考

- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（[C.Fn-01](#)）。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます。

参考

- 電源スイッチが〈LOCK〉でもテスト発光とモデリングランプの点灯を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。

表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが約12秒間照明されます（[④12](#)）。
なお、電波通信ワイヤレスセンター設定時の表示パネル照明については、「[表示パネル照明について](#)」を参照してください。

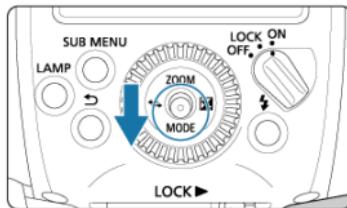
参考

- 表示パネル照明の設定を変更することができます（[C.Fn-22](#)）。

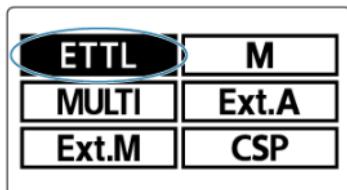
全自动ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または「全自动」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II / E-TTL 全自动ストロボ撮影」を行うことができます。

1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ



2. 〈ETTL〉を選ぶ



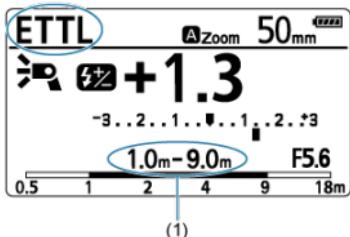
- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈ETTL〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ファインダー内に、シャッタースピードと絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈♪〉が点灯していることを確認します。

4. 撮影する



* 〈P〉(プログラムAE)の画面例です。

- 被写体が調光連動範囲(1)に入っていることを確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影が行われます。

参考

- 撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自动」は〈**A**↑〉〈**□**〉〈**CA**〉の撮影モードを示しています。
- E-TTL II対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈**ETTL**〉と表示されます。

撮影モード別E-TTL II/E-TTL自動調光撮影

[画面サイズ対応自動ズームについて](#)

[色温度情報通信について](#)

[AF補助光について](#)

カメラの撮影モードを〈**TvAvFvM**

Tv	任意のシャッタースピードを設定したいときに選択します。設定したシャッタースピードに対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。 ● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するようにシャッタースピードを変更してください。
Av	任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッタースピードが自動設定されます。 ● 暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるため、三脚を使用して撮影することをおすすめします。 ● シャッタースピードが点滅するときは、背景が露出アンダー、または露出オーバーになります。シャッタースピードが点灯するように絞り数値を変更してください。
Fv	任意のシャッタースピードまたは絞り数値が設定できます。 ● 任意のシャッタースピードの設定で絞り数値が点滅するときは、絞り数値が点灯するようにシャッタースピードを変更してください。 ● 任意の絞り数値の設定でシャッタースピードが点滅するときは、シャッタースピードが点灯するように絞り数値を変更してください。
M	シャッタースピードも絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッタースピードと絞り数値によって変わります。

* 〈**DEPA-DEPP**

撮影モード別ストロボ同調シャッタースピードと絞り数値

	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定（1/X～1/60秒）*1	自動設定
Tv	手動設定（1/X～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/X～1/60秒）*1	手動設定
Fv	手動設定／自動設定（1/X秒～）	自動設定／手動設定
M	手動設定（1/X～30秒、Bulb）	手動設定

* 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッタースピードです。

* 1：スローシンクロ設定対応カメラでは設定による

画面サイズ対応自動ズームについて

EOSデジタルカメラには3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角は画面サイズによって異なります。本機では各EOSデジタルカメラの画面サイズを自動認識して、24~200mmの範囲でレンズの有効撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈**AWB**〉、〈**AWBW**〉、〈**↓**〉のときに自動的に働きます。対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

AF補助光について



ファインダー撮影時に暗い場所でピント合わせを行ったときや、被写体のコントラストが低いときなど、AFでピントが合いにくいときは、AFによるピント合わせを補助するため、ストロボに内蔵された赤外光方式のAF補助光が自動的に光ります。

AF補助光の対応画角はレンズ焦点距離28mm以上、有効距離はファインダー内中央：約0.6～10m／周辺（中央以外）：約0.6～5mです（焦点距離28mm時）。

注意

- カメラで外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。

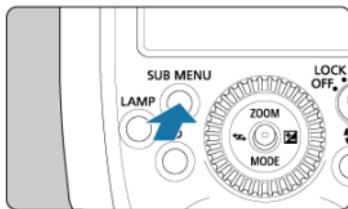
参考

- ライブビュー撮影時にAF方式が【クイックAF】【クイックモード】に設定されているときも、AF補助光が投光されます。
- AF補助光の投光を禁止することができます（[C.Fn-08](#)）。
- ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光することができます（[P.Fn-01](#)）。

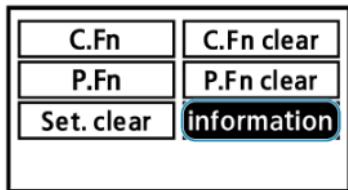
バッテリー情報を確認する

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。

1. <SUB MENU> ボタンを押す

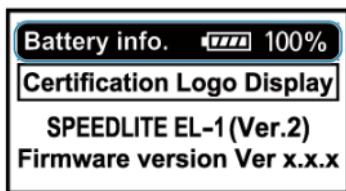


2. 情報画面を開く



- ジョイスティックを上下左右に押すか、<(◎)>を回して <information> を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. [Battery info] 画面を開く



- ジョイスティックを上下に押すか、(◎) を回して 〈Battery info.〉 を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

Battery info.	
Power source	LP-EL (1)
Remaining cap.	100% (2)
Full flash count	0 (3)
Recharge performance	■■■ (4)

- (1) 使用しているバッテリーが表示されます。
(2) バッテリー残量表示とともに、残量が1%単位で表示されます。
(3) 使用しているバッテリーで発光したフル発光換算の回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
(4) バッテリーの劣化状態が表示されます。

■■■：劣化していません

■■□：少し劣化しています

■□□：バッテリーの買い換えをおすすめします

① 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-ELの使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、ストロボ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

■ 参考

- 「バッテリーと通信できません このバッテリーを使用しますか？」と表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

ストロボ撮影応用編

この章では、ストロボの機能を活用した応用的な撮影方法について説明しています。

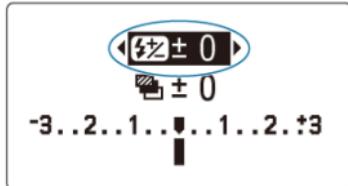
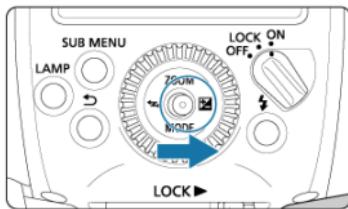
① 注意

- カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、ページタイトル右に **応用** が付いている機能は設定できません。カメラの撮影モードを **〈Fv〉** **〈P〉** **〈Tv〉** **〈Av〉** **〈M〉** **〈bulb(B)〉**（応用撮影ゾーン）にすると、この章のすべての操作を行うことができます。

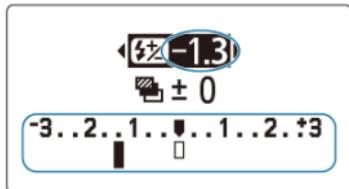
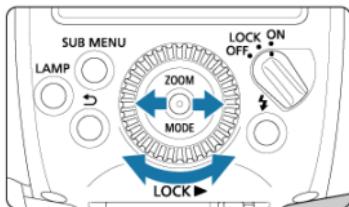
- [調光補正](#) **応用**
- [FEB](#) **応用**
- [FEロック](#) **応用**
- [ハイスピードシンクロ](#) **応用**
- [後幕シンクロ](#) **応用**
- [パウンス](#)
- [照射角の設定](#) **応用**
- [マニュアル発光](#) **応用**
- [マルチ発光](#) **応用**
- [ストロボ外部調光](#) **応用**
- [連写優先モード](#) **応用**
- [モデリングランプについて](#)
- [モデリング発光](#) **応用**
- [カラーフィルター](#)
- [ストロボ設定初期化](#) **応用**

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

1. ジョイスティックで〈〉を選ぶ



2. 補正量を設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、**〔◎〕**を回して補正量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときは、補正量を「±0」に戻します。
- 数値を変更したあと、ジョイスティックを上下に押した場合も、変更した数値が設定されます。
- 数値を変更したあと、**〔↶〕**ボタンを押した場合は、変更した数値は設定されません。

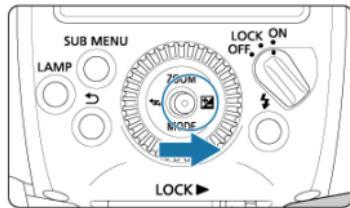


参考

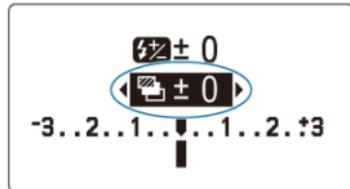
- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- ジョイスティックで**〔☒〕**を選ばずに、直接**〔◎〕**を回して調光補正量を設定することができます ([C.Fn-13](#))。

ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB(Flash Exposure Bracketing)撮影といいます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

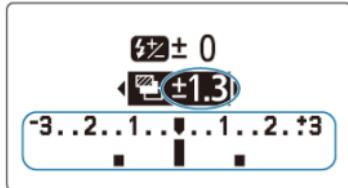
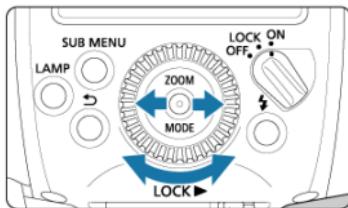
1. ジョイスティックで〈■〉を選ぶ



2. ジョイスティックを下に押してFEBを選ぶ



3. FEBレベルを設定する



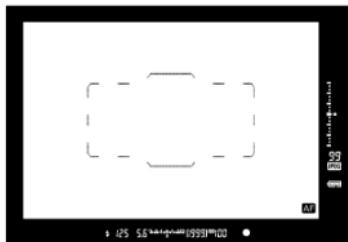
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回してFEBレベルを設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を併用したときは、設定した補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。±3段を超えるときは、調光レベルの端が〈◀〉または〈▶〉になります。
- 数値を変更したあと、ジョイスティックを上下に押した場合も、変更した数値が設定されます。
- 数値を変更したあと、〈↶〉ボタンを押した場合は、変更した数値は設定されません。

参考

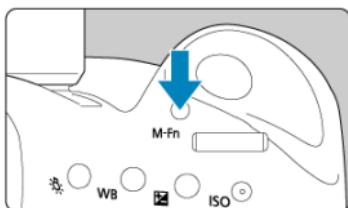
- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。ドライブモードが連続撮影のときは、3枚連続撮影して自動停止します。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて、FEB撮影を行うこともできます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます ([C.Fn-03](#))。
- FEBの撮影順序を変更することができます ([C.Fn-04](#))。

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。表示パネルに〈ETTL〉または〈CSP〉が表示されている状態で、カメラの〈M-Fn〉または〈＊〉(AEロック)、〈FEL〉ボタンを押します。

1. 被写体にピントを合わせる



2. 〈M-Fn〉ボタンを押す (※16)



- 被写体をファインダーの中央に置いてカメラの〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ストロボがブリ発光し、被写体に必要な発光量が記憶されます。
- ファインダー内に「FEL」が約0.5秒間表示されます。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにブリ発光し、そのときに必要な発光量が記憶されます。

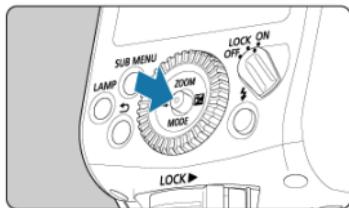


参考

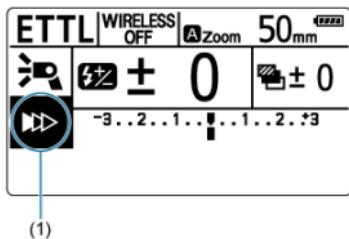
- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の〈♪〉が点滅します。被写体に近づくか絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げて再度FEロックを行う方法もあります。
- ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。

ハイスピードシンクロ機能を使用すると、ストロボ同調最高シャッタースピードを超える速いシャッタースピードでもストロボ撮影ができるようになります。日中の屋外などで、**〈Av〉**（絞り優先AE）モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいとき有効です。

1. ジョイステイックを垂直に押す

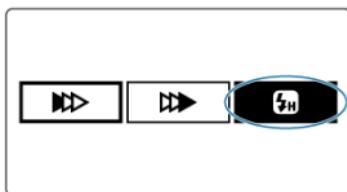


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイステイックを上下左右に押すか、**〈◎〉**を回して項目を選び、ジョイステイックを垂直に押します。

3. <FH> を選ぶ



- ジョイスティックを左右に押すか、<(◎)> を回して <FH> を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- フайнダー内に <FH> が点灯していることを確認してから撮影します。

① 注意

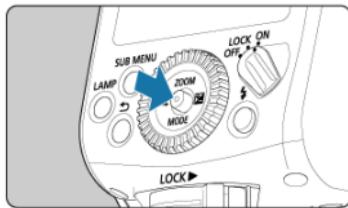
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッタースピードが高速になるほどガイドナンバーが低下します。調光運動範囲は表示パネルで確認することができます。
- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、ハイスピードシンクロ時の発光による繰り返し撮影では連続発光回数が少なくなることがあります。

■ 参考

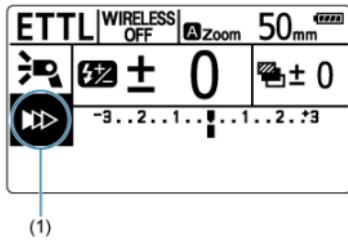
- シャッタースピードがストロボ同調最高シャッタースピード以下のときは、ファインダー内に <FH> は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、手順3で <FD> (先幕シンクロ) を選びます (設定後の画面に <FD> は表示されません)。

低速シャッターで後幕シンクロを行なうと、車のライトなど、動いている被写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する（シャッターが閉じる）直前にストロボが発光します。

1. ジョイスティックを垂直に押す

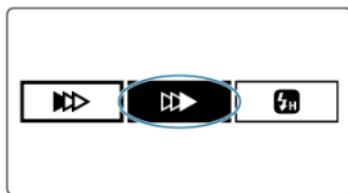


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、**(◎)**を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. **(DISP)** を選ぶ



- ジョイスティックを左右に押すか、**(◎)**を回して **(DISP)** を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



参考

- カメラの撮影モードを〈**B**〉(パルプ撮影)にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 発光モードが〈**ETTL**〉のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- 通常の発光に戻すときは、手順3で〈**◀▶**〉(先幕シンクロ) を選びます(設定後の画面に〈**◀▶**〉は表示されません)。

バウンス

☑  近距離ストロボ撮影

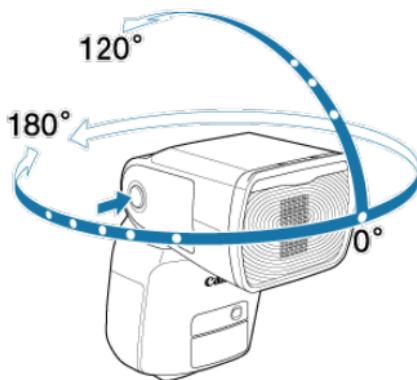
☑ キャッチライト撮影

☑  バウンスアダプターを併用した撮影

ストロボの発光部を天井や壁に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体による影が緩和されて、より自然な感じで写すことができます。この撮影方法を「バウンス撮影」といいます。

発光部の向きを決める

- 図のように、バウンスロック解除ボタンを押しながら発光部の向きを変えることができます。発光部の向きを変えたときは、表示がになります。
- 照射角を**(A)**(自動設定)に設定した状態で発光部の向きを変えると、照射角が50mmに設定され、**(---**)と表示されます。
- 照射角を手動で設定することもできます(☑)。



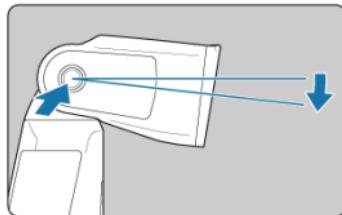
参考

- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れていると、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- 撮影した画像が暗いときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- バウンス撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

〈〉 近距離ストロボ撮影

パウンスロック解除ボタンを押しながら発光部を下方向7°の位置にすると、約0.5～2mの範囲にある、撮影距離が近い被写体を撮影することができます。

下方向7°の位置にしたときは、表示が〈〉になります。

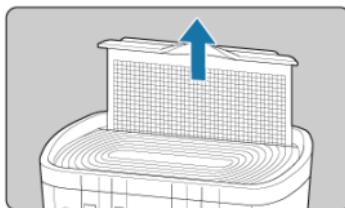


キャッチライト撮影

キャッチライトパネルを使ってポートレート撮影を行うと、人物の目に光が写り込み、表情をより生き生きとさせることができます。

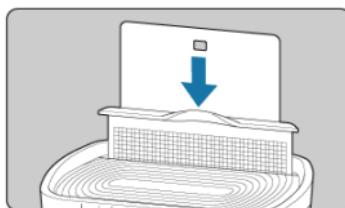
1. 発光部を上方向90°にする

2. ワイドパネルを引き上げる

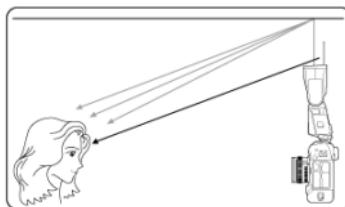


- ワイドパネルの中央にある突起を引き上げます。
- 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。

3. ワイドパネルを押し戻す



- ワイドパネルだけを押し戻し、キャッチライトパネルだけが上がった状態にします。
- バウンス撮影と同じ方法で撮影します。



① 注意

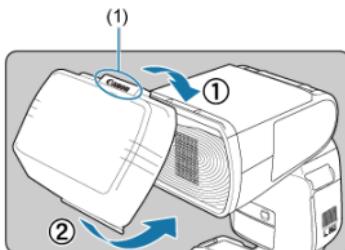
- 発光部の位置は正面・上方向90°にしてください。発光部を左右に回転させるとキャッチライトの効果は得られません。
- 人物の目にキャッチライトを効果的に入れるため、被写体から約1.5m以内(ISO100・F2.8時)の距離で撮影してください。
- ワイドパネルを強い力で引き上げないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。

〈〉 バウンスアダプターを併用した撮影

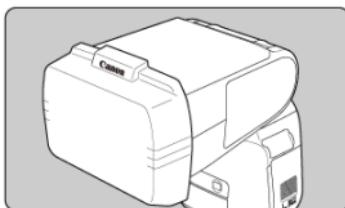
付属のバウンスアダプターをストロボに装着して、ストロボ光を天井や壁などにバウンスさせて撮影すると、ストロボ光がより広範囲に拡散されて和らぎ、被写体の影を抑えることができます。

また、発光部を90°の位置にして天井などにバウンスさせたときは、バウンスアダプターの側面から拡散されたストロボ光が被写体の正面から当たり（撮影距離の目安：約1.5m以内／ISO100・F2.8時）、被写体の影をさらに抑えることができます。人物撮影のときはキャットライト効果も得られます。

1. バウンスアダプターを取り付ける

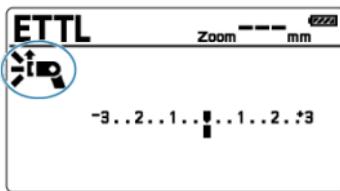


(1) "Canon"ロゴ

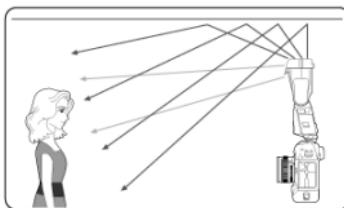


- 図のようにアダプターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が〈〉になっていることを確認します。
- アダプターを取り外すときは、逆の手順でアダプターの下側にある取り外し爪を浮かせて発光部から取り外します。

2. 撮影する



- 天井や壁などにバウンスさせて撮影します。



注意

- バウンスマダプター装着時や、バウンスマダプター+ワイドパネル併用時は、ガイドナンバーが低下して露出不足になりやすいため、必要に応じてカメラのISO感度を上げたり、調光補正(④)を行ってください。
- バウンスマダプター装着時にクイック発光(⑤)を行うと、発光量が不足することがあるため、充電ランプが赤色に点灯してから撮影することをおすすめします。
- バウンスマダプター装着時は、照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません。
- 2004年までに発売されたEOSデジタルカメラを使用して、ストロボにバウンスマダプターを装着したときは、ホワイトバランスを〈AWB〉に設定してください。〈↓〉の設定で撮影すると、適切なホワイトバランスが得られないことがあります。



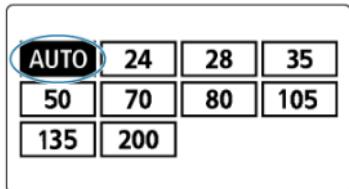
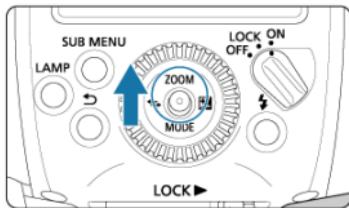
参考

- ワイドパネルを併用すると(⑥)、さらに光を和らげることができます。
- 撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、調光補正(④)を行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

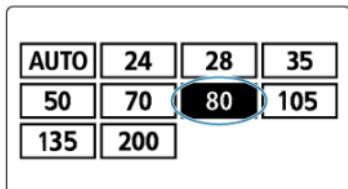
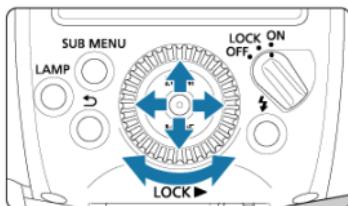
図 ワイドパネル

照射角（ストロボ光を照射する範囲）を、自動または手動で設定することができます。〈A〉（自動設定）のときは、使用するレンズの焦点距離（撮影画角）、画面サイズ（図）に応じて照射角が自動調整されます。〈M〉（手動設定）のときは、24～200mmの範囲で任意に設定することができます。

1. ジョイスティックで〈ZOOM〉を選ぶ



2. 照射角を設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して照射角を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 自動設定にするとときは(AUTO)、手動設定を行うときは(焦点距離mmを表す) 数値を選びます。

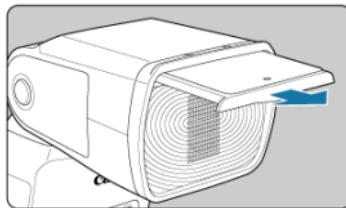
参考

- 照射角を手動設定するときは、撮影した写真の周辺が暗くならないように、撮影画角と同じか、撮影画角よりも広い照射角を設定します。
- 焦点距離が24mmより短いレンズを装着したときは、表示パネルに警告(① WIDE)が表示されます。なお、画面サイズがフルサイズ以外のカメラを使用したときは、実際の撮影画角が24mmレンズ相当の画角よりも広いときに警告(① WIDE)が表示されます。
- カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続して撮影するときは、照射角を手動で設定してください。

ワイドパネル

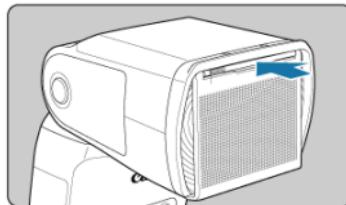
ストロボに内蔵されたワイドパネルを併用すると、焦点距離14mmの超広角レンズの撮影画角に対応したストロボ撮影を行うことができます。

1. ワイドパネルを引き出す



- ワイドパネルの中央にある突起を引き出します。
- 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。

2. キャッチライトパネルを押し戻す



- キャッチライトパネルだけを押し戻し、ワイドパネルが下がった状態にします。

① 注意

- ワイドパネルを使用してパワーストロボ撮影を行うと露出不足になりやすいため、表示パネルに警告〈① WP〉が表示されます。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。
- EF15mm F2.8 フィッシュアイ、EF8-15mm F4L フィッシュアイUSMの撮影画角には対応していません。

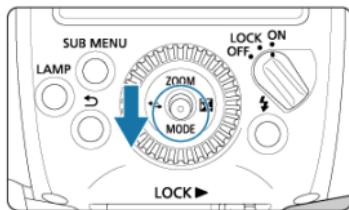
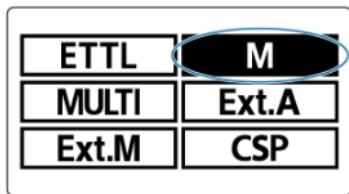


参考

- ワイドパネル使用時は照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません。

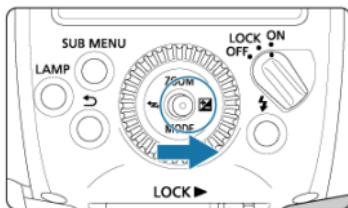
図 FEメモリー機能でマニュアル発光の発光量を設定する方法**図 ストロボメータードマニュアル撮影**

フル発光（1/1）から1/8192発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することができます。市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定することをおすすめします。

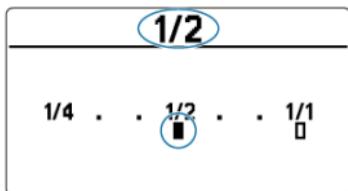
1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ**2. 発光モードを〈M〉にする**

- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 M 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

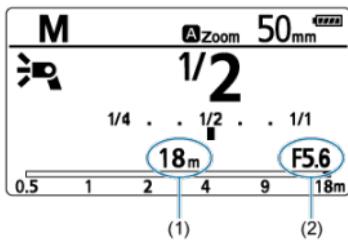
3. ジョイスティックで〈団〉を選ぶ



4. 発光量を設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して発光量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。



- シャッター ボタンを半押しすると、撮影距離 (1) の目安と絞り 数値 (2) が表示されます。



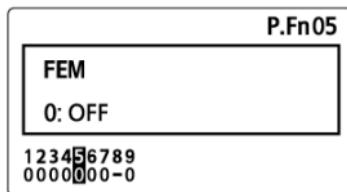
参考

- ハイスピードシンクロ設定時および光通信ワイヤレス設定時は、発光量の設定範囲は1/1から1/128になります。
- マニュアル発光時のガイドナンバーについては、「[主な仕様](#)」を参照してください。
- ジョイスティックで〈MODE〉を選ばずに、直接〈◎〉を回して発光量を設定することができます ([C.Fn-13](#))。

FEメモリー機能でマニュアル発光の発光量を設定する方法

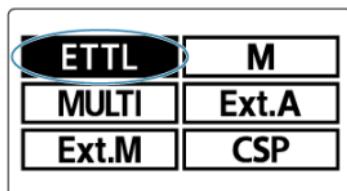
発光モード〈ETTL〉で撮影した発光量を、発光モード〈M〉の発光量として設定することができます。

1. FEメモリー機能を設定する

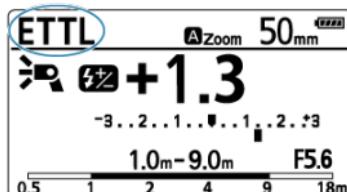


- パーソナル機能の P.Fn-05 〈FEM〉 の設定を1 : ONにします (④)。

2. 発光モードを〈ETTL〉にして撮影する

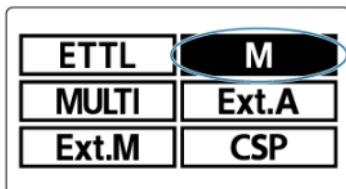


- ジョイスティックで〈MODE〉を選びます。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して〈ETTL〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



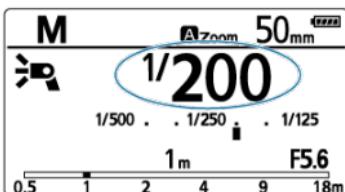
- シャッターボタンを全押しして撮影を行います。

3. 発光モードを〈M〉にする



- ジョイスティックで〈MODE〉を選びます。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 M 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. 発光量を確認する



① 注意

- <ETTL> の設定でストロボを発光するときは、充電ランプが赤色（フル充電）の状態で行ってください。
- <ETTL> の設定で撮影したあとに、光量やズームなどの発光量に関わる設定、ISO感度や絞り数値の変更を行った場合は、再度 <ETTL> の設定で撮影することをおすすめします。
- カメラのホワイトバランスを <AWB> に設定しているとき、ストロボと周囲の外光の色温度差が大きく、調光補正を一側に、[E-TTLテイスト] を [霧囲気重視] に設定したときは、撮影画像の色味が <ETTL> と <M> の設定で異なる場合があります。色温度差が大きい場合は、カラーフィルターを装着すると改善する場合があります。
 - 蛍光灯（昼白色）→カラーフィルター薄
 - タングステンランプ→カラーフィルター濃
 - 太陽光→フィルター不要
- ワイヤレスストロボ撮影でFEメモリー機能を使用するときは、<ETTL> と <M> の発光グループの設定をあらかじめ同じにしておいてください。なお、<ETTL> で <A:B:C> を設定したときは <M> では <A:B:C> に設定してください。
- 撮影条件によって <ETTL> の調光運動範囲の表示と <M> の撮影距離の表示が異なることがあります。

② 参考

- P.Fn-05 <FEM> の設定を2:ON/MODE<ETTL↔M>にすると、ジョイスティックを下に押すだけで <ETTL> と <M> が切り換わります。

ストロボメータードマニュアル撮影

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1. カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2. ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

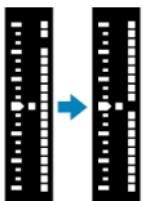
3. 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようになります。

4. 〈M-Fn〉または〈＊〉〈FEL〉ボタンを押す（ $\oplus 16$ ）

- ストロボがブリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5. 調光レベルを設定する



- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。

6. 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。



参考

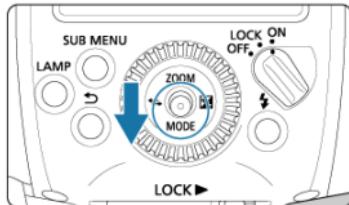
- EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

図 シャッタースピードの求め方

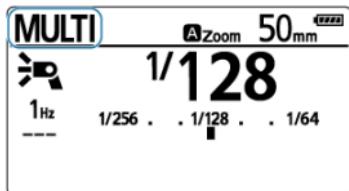
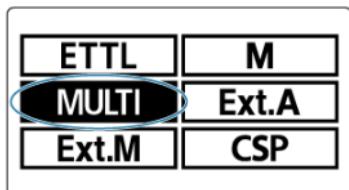
低速シャッターでマルチ発光を行うと、一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のようにして、重ねて撮影することができます。

マルチ発光では、発光量、発光回数、発光周波数（1秒間の発光回数=Hz）を設定します。最大連続発光回数については、「[最大連続発光回数](#)」を参照してください。

1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

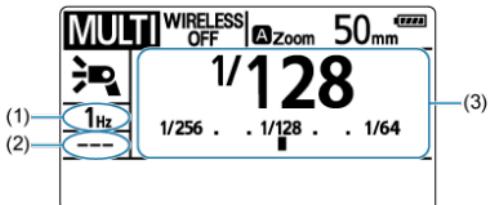
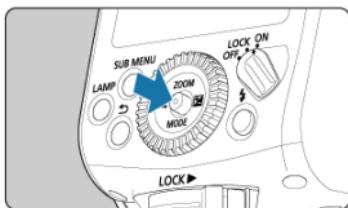


2. 発光モードを〈MULTI〉にする



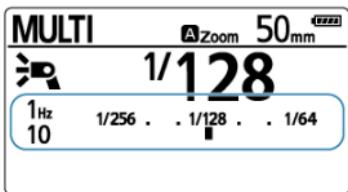
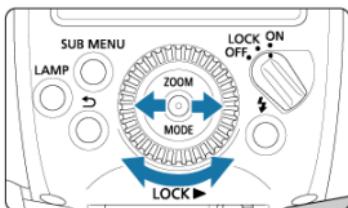
- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈MULTI〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. ジョイスティックを垂直に押して項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して発光周波数(1)、発光回数(2)、発光量(3)のいずれかを選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. 数値を設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して数値を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 手順3、4を繰り返して、発光周波数、発光回数、発光量を設定します。

シャッタースピードの求め方

マルチ発光を行うときは、連続発光が終わるまでシャッターが開いているように、以下の計算式から求めたシャッタースピードをカメラに設定します。

$$\text{発光回数} \div \text{発光周波数} = \text{シャッタースピード}$$

例えば、発光回数10（回）、発光周波数5（Hz）で撮影するときは、シャッタースピードを2秒以上に設定します。

① 注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は30回までにしてください。30回撮影したときは、10分以上休止してください。
- 30回を超えて繰り返し撮影を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは50分以上休止してください。

② 参考

- マルチ発光を行うときは、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせが最も効果的です。
- 三脚、リモートスイッチの使用をおすすめします。
- 1/1発光、1/2発光は設定できません。
- カメラの撮影モードが〈bulb(B)〉(バルブ撮影)でもマルチ発光を行うことができます。
- 発光回数の表示が「----」のときは、シャッターが閉じるか、充電が切れるまで連続発光しますが、[最大連続発光回数](#)は表のとおりになります。
- マルチ発光時にハイスピードシンクロ(④)はできません。

最大連続発光回数

発光回数が「----」(バー表示)のときの最大発光回数も、下表のとおりです。

発光量/ Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	7	6	5	4	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	100	100	100	100	100	90	80
1/256	100	100	100	100	100	100	100
1/512	100	100	100	100	100	100	100
1/1024	100	100	100	100	100	100	100
1/2048	100	100	100	100	100	100	100
1/4096	100	100	100	100	100	100	100
1/8192	100	100	100	100	100	100	100

発光量/ Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199	250-500
1/4	2	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	8	8	8
1/32	20	20	20	18	16	12	10
1/64	50	40	40	35	30	20	15
1/128	70	70	60	50	40	40	30
1/256	100	100	100	100	80	80	60
1/512	100	100	100	100	100	100	100
1/1024	100	100	100	100	100	100	100
1/2048	100	100	100	100	100	100	100
1/4096	100	100	100	100	100	100	100
1/8192	100	100	100	100	100	100	100

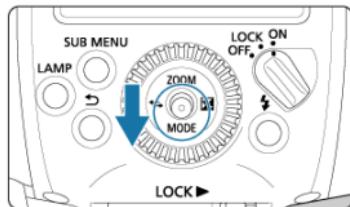
図 〈Ext.A〉: 外部調光オート**図 〈Ext.M〉: 外部調光マニュアル**

ストロボに内蔵された外部調光用センサーで、被写体に反射したストロボ光をリアルタイムで測光し、標準露出になった時点でストロボの発光を自動停止する方式のストロボ撮影です。

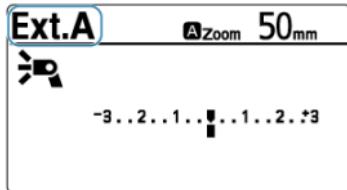
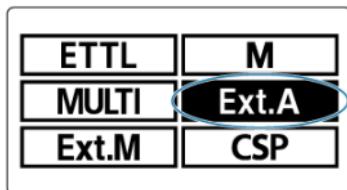
「外部調光オート」は、2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に機能します。
「外部調光マニュアル」は、すべてのEOSカメラで機能します。

〈Ext.A〉: 外部調光オート

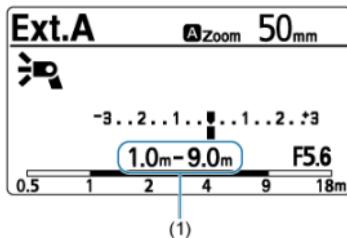
カメラまかせの自動ストロボ撮影を行うことができます。カメラに設定されているISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。

1. ジョイステイックで〈MODE〉を選ぶ

2. 発光モードを〈Ext.A〉にする



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈Ext.A〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



- シャッターボタンを半押しすると、調光運動範囲(1)が表示されます。

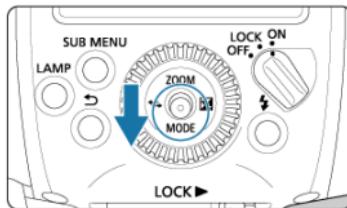
参考

- 〈Ext.A〉設定時は、調光補正(②)、FEB撮影(④)を行うことができます。

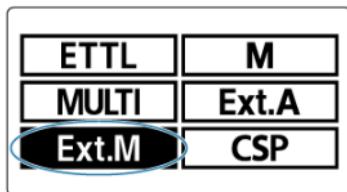
〈Ext.M〉：外部調光マニュアル

カメラに設定されているISO感度、絞り数値を、ストロボに手動で設定します。設定したISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。

1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

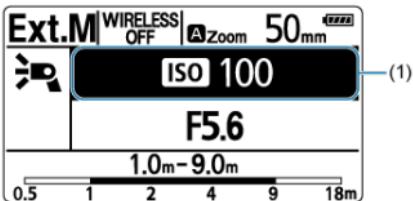


2. 発光モードを〈Ext.M〉にする

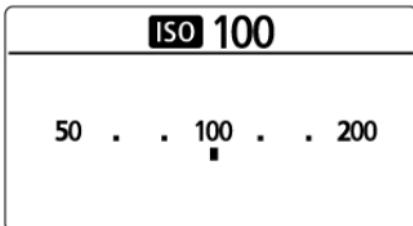


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈Ext.M〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. カメラと同じISO感度を設定する

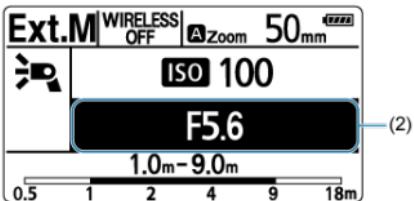


- ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して(1)の項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

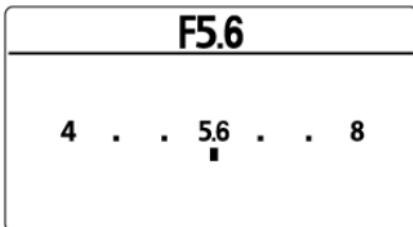


- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回してISO感度を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 1/3段ステップ、ISO25~819200の範囲で設定することができます。

4. カメラと同じ絞り数値を設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して（2）の項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して絞り数値を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 設定したISO感度、絞り数値に応じた調光運動範囲が表示されます。

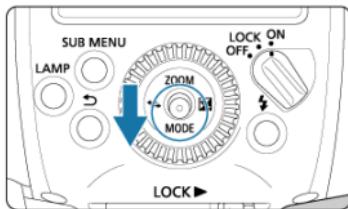


参考

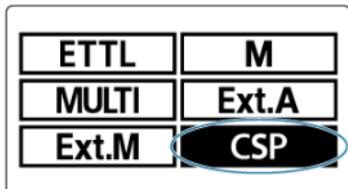
- 〈Ext.M〉設定時に、カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続すると、ストロボをカメラから離して撮影することができます。
- ストロボのシンクロ端子に、別のストロボをシンクロコードで接続しても発光しません。

カメラによっては、[CSP]（連写優先モード）でのストロボ撮影を行うことができます。連写優先モードは、通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボのバッテリーの消耗を抑えたいときなどに効果的です。詳しくは連写優先モードに対応したカメラの使用説明書を参照してください。

1. ジョイステイックで〈MODE〉を選ぶ



2. 発光モードを設定する



- ジョイステイックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈CSP〉を選び、ジョイステイックを垂直に押します。



参考

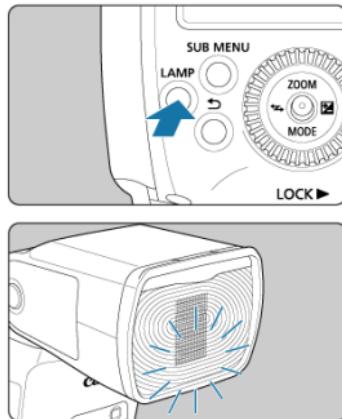
- 絞り数値が大きいときや、被写体までの距離が遠いときは、連続発光やバッテリーの消耗を抑えるなどの効果が得られにくくなります。
- 連写優先モードに対応していないカメラでは、撮影時に発光モードが〈ETTL〉になります。

モデリングランプについて

〈LAMP〉ボタンを押すと、モデリングランプが5分間点灯します。もう一度押すと消灯します。

ストロボ光による被写体の影の出かたを確認するときに有効です。

モデリングランプは、カメラのシャッターボタンを全押しすると自動的に消灯します。



① 注意

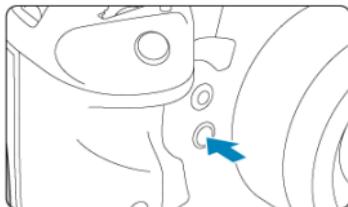
- モデリングランプを近距離で直視すると、視力障害を起こす恐れがあります。
- モデリングランプが点灯した状態で撮影すると、露出アンダーになることがあります。必要に応じて露出補正、調光補正を行ってください。
- ストロボ発光禁止モードや動画撮影時など、ストロボが発光しない条件のときは、シャッターボタンを全押ししても、モデリングランプは自動的に消灯しません。
- モデリングランプの温度が上昇すると警告画面が表示されます（）。
- モデリングランプの周囲環境温度が高温になった場合、明るさが低下、または消灯することがあります。

■ 参考

- モデリングランプの点灯方法を変更することができます（[C.Fn-18](#)）。
- モデリングランプの明るさや色温度を変更することができます（[P.Fn-08](#)）。
- モデリングランプの点灯時間を選ぶことができます（[P.Fn-09](#)）。
- ワイドパネルやバウンスアダプター、カラーフィルターを使用すると明るさが低下します。

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが約1秒間連続的に発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたや、ワイヤレスストロボ撮影時（[◎](#)、[◎](#)）にライティングのバランスを確認するときに有効です。

1. カメラの絞り込みボタンを押す



- ストロボが約1秒間連続的に発光します。

① 注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は55回までにしてください。記載した回数のモデリング発光を行ったときは、50分以上休止してください。
- 上記回数のモデリング発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限レベル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。そのときは50分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、（カメラ側操作による）モデリング発光はできません。
- EOS Rシリーズと組み合わせたときは、（カメラ側操作による）モデリング発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して（[◎](#)）、テスト発光ボタンでモデリング発光を行ってください。



参考

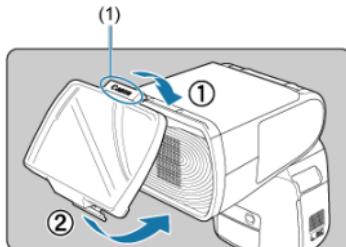
- 通常のストロボ撮影、および電波通信／光通信ワイヤレス撮影時のセンダーストロボのときに、テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます（[C.Fn-02](#)）。

カラーフィルター

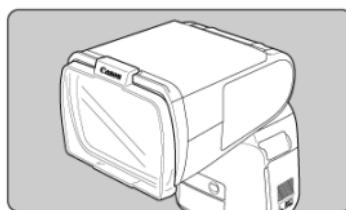
白熱電球照明（タンクステン光源）下でストロボ撮影を行うと、ストロボ光が届かない被写体の背景が、赤みがかった不自然な色になることがあります。付属のカラーフィルターをストロボに装着して撮影すると、カメラのホワイトバランス機能によって自動補正が行われ、被写体と背景を適切なホワイトバランスで写すことができます。

フィルター	濃度	補正効果	用途
カラーフィルター (オレンジ色)	淡	弱	白熱電球による影響を補正
	濃	強	

1. カラーフィルターを取り付ける

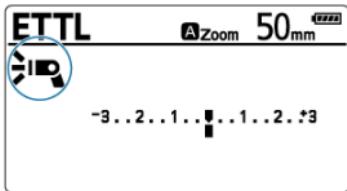


(1) "Canon"ロゴ



- 図のようにフィルターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が〈REC〉になっていることを確認します。
- フィルターを取り外すときは、逆の手順でフィルターの下側にある保持爪を浮かせて発光部から取り外します。

2. 撮影する



- カメラのホワイトバランスを、**()**に設定して撮影します。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラでは、ホワイトバランスを**(AWB)**に設定して撮影することもできます（EOS Kiss X70を除く）。
- 撮影結果を確認して、必要に応じてカメラ側でホワイトバランス補正を行ってください。



注意

- カラーフィルター使用時はガイドナンバーが低下します。マニュアル発光、マルチ発光を行うときは、「淡」フィルター：+1/3段、「濃」フィルター：+1段を目安に発光量を補正してください。
- 付属のカラーフィルターに市販のカラーフィルターを重ねて使用しないでください。

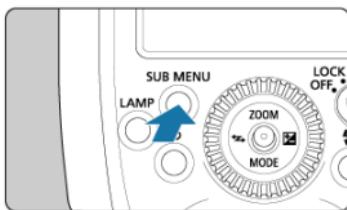


参考

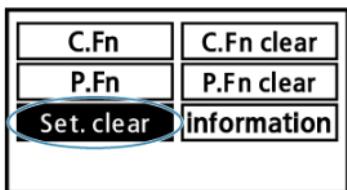
- 色温度情報通信に対応していないカメラのときは**()**、撮影する環境下でカラー フィルターを使ってマニュアルホワイトバランス用の画像の撮影と設定を行い、ホワイトバランスを**()**に設定して撮影してください。
- カラーフィルターを装着し、広角レンズを使用してストロボ撮影を行ったときは、周辺光量が低下することがあります。
- カラーフィルターが汚れたり、ゴミが付着したときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- カラーフィルター使用時にバウンスアダプター**()**を取り付けることもできます。
- 白熱電球照明の（やや赤みがかった）雰囲気を出したいときは、アンバー側にホワイトバランス補正を行ってください。

ストロボの撮影機能やワイヤレス撮影の設定を、初期状態に戻すことができます。

1. 〈SUB MENU〉ボタンを押す

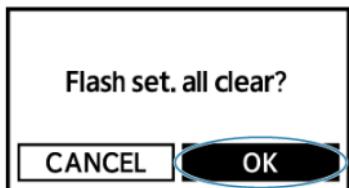
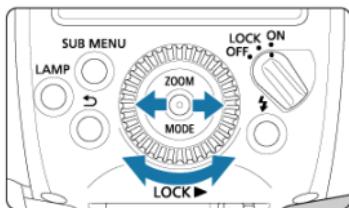


2. 〈Set. clear〉を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して 〈Set. clear〉 を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 設定を初期化する



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈OK〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが〈ETTL〉になります。

参考

- 設定初期化を行っても、ワイヤレス撮影時の通信チャンネルと電波通信ID、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) の設定は解除されません。

カメラ操作によるストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。

① 注意

- カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを 〈**FvPTvAvMB**)〉 (応用撮影ゾーン) にしてください。

- [カメラのメニュー画面からのストロボ制御](#)

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

☑ [ストロボ機能設定](#)

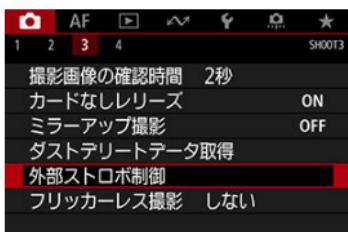
☑ [ストロボ機能設定画面で設定できる内容](#)

☑ [ストロボカスタム機能設定](#)

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

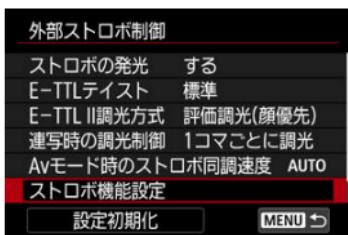
ストロボ機能設定

1. [外部ストロボ制御] を選ぶ



- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] を選びます。

2. [ストロボ機能設定] を選ぶ



- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選びます。
- 設定画面が表示されます。

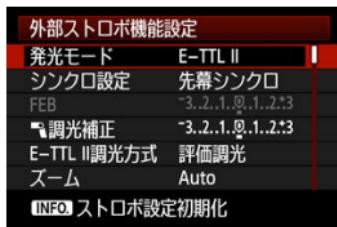
3. 機能を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラの【ストロボ機能設定】または【外部ストロボ機能設定】の画面で「通常撮影」「電波通信ワイヤレス撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。

* EOS Kiss X90/X80/X70は2012年以降の発売ですが、設定できる内容は下記の「2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ」と同じです。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

カメラの【ストロボ機能設定】または【外部ストロボ機能設定】の画面で、「通常撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。「電波通信ワイヤレス撮影」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラや発光モード、ワイヤレス機能の設定などにより、設定できる内容が異なります。

機能	
ストロボの発光	する／しない
E-TTLテイスト	霧囲気重視／標準／発光量強め
E-TTL II調光方式	評価調光(顔優先)／評価調光／平均調光
連写時の調光制御	1コマごとに調光／1コマ目で固定
Avモード時のストロボ同調速度	
発光モード	E-TTL II(自動調光)／マニュアル発光／マルチ発光／外部調光オート／外部調光マニュアル／連写優先モード
ワイヤレス機能	ワイヤレス：OFF／電波通信／光通信
ズーム（照射角）	
シンクロ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ／ハイスピードシンクロ
調光補正	
FEB	

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、【する】に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用するときは、【しない】に設定します。

● E-TTLテイスト

好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テイスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

● E-TTL II調光方式

【評価調光(顔優先)】に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。高速連続撮影時の連続撮影速度が、【評価調光】または【平均調光】よりも低下します。【評価調光】に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。【平均調光】に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

● 連写時の調光制御

【1コマごとに調光】に設定すると、撮影するごとに調光を行います。【1コマ目で固定】に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

● Avモード時のストロボ同調速度

〈Av〉絞り優先AEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調シャッタースピードを設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて【E-TTL II】【マニュアル発光】【マルチ発光】【外部調光オート】【外部調光マニュアル】【連写優先モード】の中から、発光モードを選ぶことができます。

● ワイヤレス機能

電波通信ワイヤレスストロボ撮影、光通信ワイヤレスストロボ撮影の設定を行うことができます。詳しくは、「[電波通信ワイヤレスストロボ撮影](#)」、「[光通信ワイヤレスストロボ撮影](#)」を参照してください。

● ズーム（照射角）

ストロボの照射角を設定することができます。【オート】を選ぶと、撮影レンズの焦点距離、カメラの画面サイズ（④）に応じて照射角が自動設定されます。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング／発光方式を【先幕シンクロ】【後幕シンクロ】【ハイスピーディンクロ】の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは、【先幕シンクロ】に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

● 設定初期化

【ストロボ機能設定初期化】または【外部ストロボ設定初期化】を選びと、ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。

① 注意

- パウンスアダプター装着時、ワイドパネル使用時など、照射角が自動設定されるとときは、【ズーム】（照射角）の設定はできません。

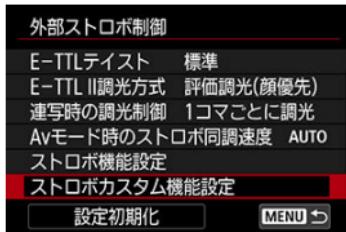
② 参考

- 【ストロボの発光】【E-TTL II調光方式】は、「[ストロボ機能設定](#)」の手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は使用するカメラによって異なります。C.Fn-21～23が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、「[カスタム機能で変更できる内容](#)」を参照してください。

1. [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

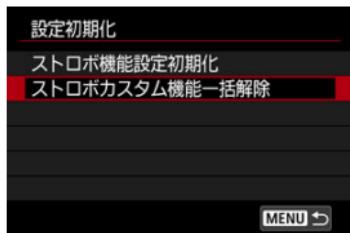


- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。

2. カスタム機能を設定する



- カスタム機能番号（1）を選び、機能を設定します。



- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で【設定初期化】を選び、【ストロボカスタム機能一括解除】または【外部ストロボカスタム機能一括解除】を選びます。

!! 注意

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70では、【ストロボカスタム機能一括解除】または【外部ストロボカスタム機能一括解除】を選んでも、C.Fn-21～23の設定は解除されません。カスタム機能一括解除（）を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます（C.Fn-00を除く）。
- パーソナル機能（）は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

電波通信ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「電波通信」ワイヤレスセンダー／レシーバー機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

センター／レシーバーには、電波通信ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボが使用できます。

! 注意

- カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**FvPTvAvMbulb(B)- 電波通信ワイヤレス撮影を優先するときは、電源スイッチやバッテリー収納部ふたなどを操作しないでください。ワイヤレス接続が終了します。**

参考

- カメラに取り付けたEL-1（Ver.2）を「センター」、ワイヤレス制御されるスピードライトを「レシーバー」と呼んでいます。
- EL-1（Ver.2）は、レシーバーからのリモートトレリーズ（リモコン撮影）が可能です（[④](#)）。詳しくはリモートトレリーズ機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。

- [電波通信ワイヤレスストロボ撮影](#)
- [電波通信ワイヤレス設定](#)
- [レシーバーを1灯使った自動調光撮影](#)
- [レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影](#)
- [レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影](#)
- [発光量を設定したワイヤレス多灯撮影](#)
- [グループごとに発光モードを設定した撮影](#)
- [レシーバーからのテスト発光／モデリング発光](#)
- [レシーバーからのリモートトレリーズ](#)
- [電波通信による連動撮影](#)

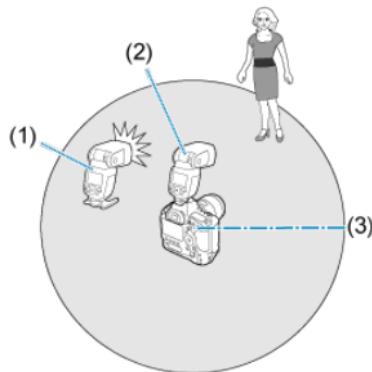
電波通信ワイヤレスストロボ撮影

- [配置と作動範囲](#)
- [電波通信と光通信の違いについて](#)
- [グループ制御について](#)
- [使用カメラによる機能制限について](#)

電波通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライトを使用すると、通常の E-TTL II / E-TTL 自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。
EL-1 (Ver.2) (センダー) の設定内容が、ワイヤレス制御されるスピードライト (レシーバー) 側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません。

配置と作動範囲

- レシーバーを1灯使った自動調光撮影 (回)



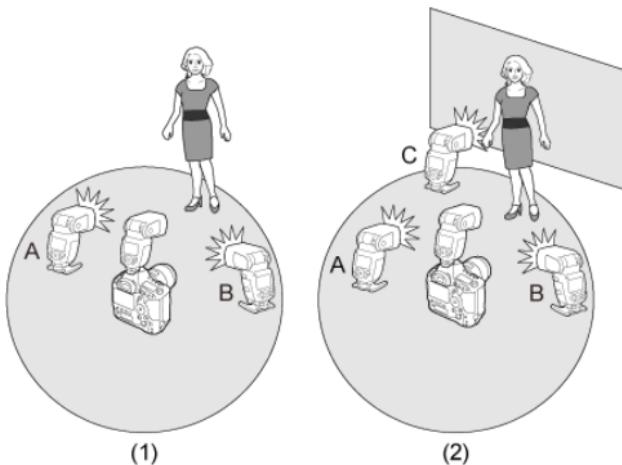
(1) **RECEIVER** EL-1 (Ver.2)

(2) **SENDER** EL-1 (Ver.2)

(3) 通信可能距離約30m

● レシーバーをグループに分けた自動調光撮影 (図、図)

レシーバーを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えるながら、E-TTL II / E-TTL 自動調光撮影ができます。



- (1) 2 (A, B) グループ
- (2) 3 (A, B, C) グループ

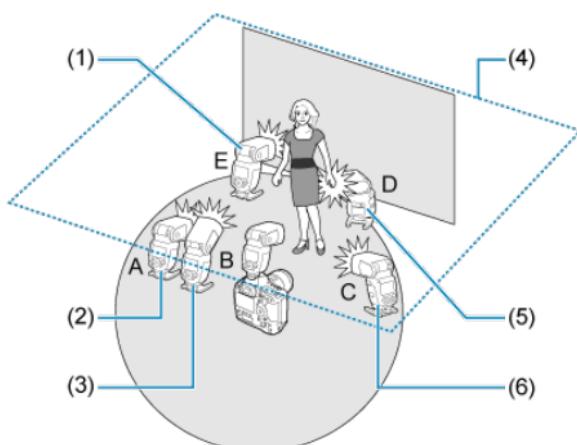
注意

- 撮影する前に、テスト発光 (図) やテスト撮影を行ってください。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。

参考

- レシーバーストロボに付属しているミニスタンドを使用して配置します。

● グループごとに発光モードを設定した撮影 (図)



* 発光モードの設定は一例です。

- (1) E-TTL II
- (2) E-TTL II
- (3) マニュアル発光
- (4) 天井
- (5) マニュアル発光
- (6) マニュアル発光

電波通信と光通信の違いについて

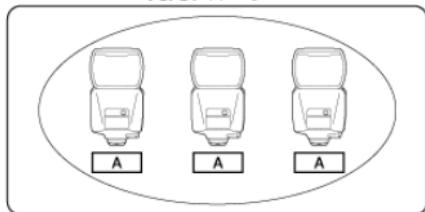
電波通信によるワイヤレス撮影は、光通信によるワイヤレス撮影に比べて、障害物の影響を受けにくく、レシーバーのワイヤレス受信部をセンターに向ける必要がないなどの利点があります。なお、機能面での主な違いは次のとおりです。

機能	電波通信	光通信
通信可能距離	約30m	約15m（屋内）
発光グループ制御	最大5グループ*1 (A, B, C, D, E)	最大3グループ (A, B, C)
レシーバー制御	最大15台	無制限
通信チャンネル	オート、Ch.1~15	Ch.1~4
電波通信ID	0000~9999	-
レシーバー操作	テスト発光	<input type="radio"/>
	モデリング発光	<input type="radio"/> *2
	リリース	<input type="radio"/> *3

* 1~3 : 使用するカメラにより制限事項があります (*1 : [使用カメラによる機能制限について、グループごとに発光モードを設定した撮影](#)、*2 : [レシーバーからのテスト発光／モデリング発光](#)、*3 : [レシーバーからのリモートリリース](#)を参照してください)。

グループ制御について

発光グループA



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やすことができます。追加するレシーバーを、光量を大きくしたい発光グループ（A, B, Cのいずれか）に設定するだけです。

例えば、3台のレシーバーの発光グループを〈A〉に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

注意

- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、〈[A:B C]〉に設定してください。〈[A:B]〉の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

参考

- 光量比の8 : 1～1 : 1～1 : 8は、段数換算で3 : 1～1 : 1～1 : 3 (1/2段ステップ)に相当します。

使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレスストロボ撮影では、使用するカメラにより、機能が制限されることがあります。

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラと組み合わせたときは、発光モードやストロボ同調速度などの制限はありません。

* EOS Kiss X90/X80/X70は2012年以降の発売ですが、機能制限の内容は2011年までに発売されたEOSデジタルカメラと同じです（下記参照）。

● 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ

下記のカメラと組み合わせたときは、電波通信ワイヤレスによるE-TTL自動調光撮影はできません。マニュアル発光（）または光通信ワイヤレスストロボ撮影（）を行ってください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50

また、2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ、EOSフィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

(1) ストロボ同調最高シャッタースピードが1段遅くなります。

使用するカメラのストロボ同調最高シャッタースピード（X=1/**秒）を確認して、ストロボ同調最高シャッタースピードから1段遅いシャッタースピードを上限にして撮影を行ってください（例：X=1/250秒の場合、1/125～30秒の範囲で電波通信ワイヤレスストロボ撮影が可能）。

シャッタースピードをストロボ同調最高シャッタースピードから1段遅くすると、による警告表示が消えます。

(2) ハイスピードシンクロ撮影はできません。

(3) グループ発光（）はできません。

(4) レシーバーからのモデリング発光（）、レシーバーからのリモートリリーズ（

(5) 連動撮影時に「レシーバーカメラ」として使用できません（）。「センダーカメラ」としてのみ使用できます。

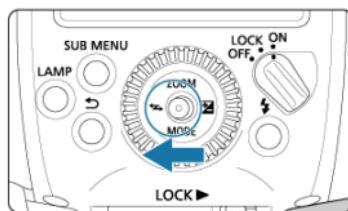
電波通信ワイヤレス設定

- ☒ [センダー設定](#)
- ☒ [レシーバー設定](#)
- ☒ [通信チャンネル／電波通信IDの設定](#)
- ☒ [〈LINK〉ランプ、接続表示について](#)
- ☒ [センダーストロボの発光ON/OFF](#)
- ☒ [メモリー機能](#)

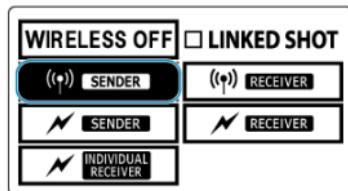
E-TTL II / E-TTL 自動調光による電波通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の手順でセンダーとレシーバーの設定を行います。

センダー設定

1. ジョイスティックで〈↔〉を選ぶ

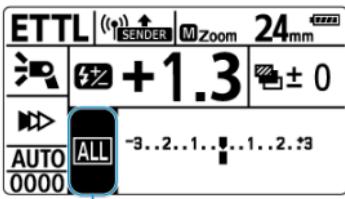


2. 〈(P) SENDER〉に設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して〈(P) SENDER〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 発光方法を選ぶ

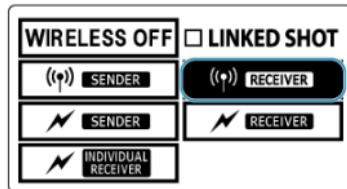


(1)

- ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、**Ⓐ**を回して(1)の項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、**Ⓑ**を回して**〈ALL〉**、**〈A:B〉**、**〈A:B C〉**の中から選び、ジョイスティックを垂直に押します。

レシーバー設定

1. 〈(P) RECEIVER〉に設定する



- レシーバーに設定するストロボを操作して設定します。
- センダー設定と同じ操作で 〈(P) RECEIVER〉 を選びます。

注意

- 通常のストロボ撮影を行うときは、〈 WIRELESS OFF 〉を選んでワイヤレス（センダー／レシーバー）の設定を解除してください。

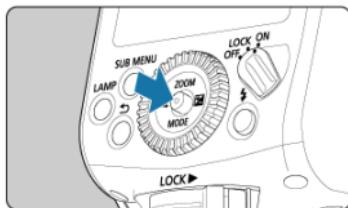
通信チャンネル／電波通信IDの設定

以下の操作で、センダーの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。**チャンネルとIDは、センダーとレシーバーで同じ設定にします。**なお、レシーバーの操作方法については、電波通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。

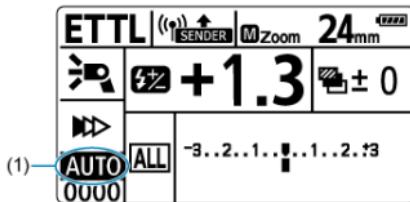
① 注意

- 同じ場所に複数の電波通信ワイヤレスシステムを構築するときは、異なる通信チャンネルに設定していても混信があることがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください。

1. ジョイステイックを垂直に押す



2. (1) 項目を選ぶ



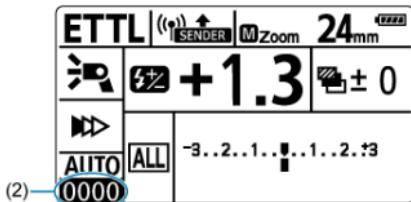
- ジョイステイックを上下左右に押すか、(◎)を回してチャンネルの項目を選び、ジョイステイックを垂直に押します。

3. 通信チャンネルを設定する

AUTO	1	2	3
4	5	6	7
8	9	10	11
12	13	14	15

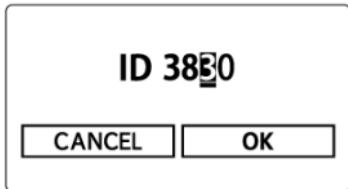
- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して [AUTO] またはCh.1～15の中から選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. (2) 項目を選ぶ

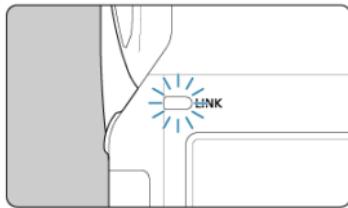


- 通信チャンネル設定と同じ操作でIDの項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

5. 電波通信IDを設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して設定する位置（桁）を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを上下に押すか、〈◎〉を回して0～9の番号を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 同じ操作で4桁の番号を設定し、〈OK〉を選びます。



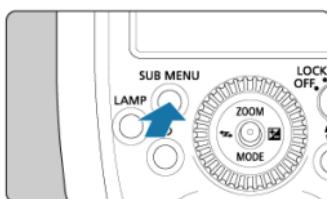
- センダーとレシーバーの通信が確立すると、〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯します。

センターの通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、センターの通信チャンネルを自動または手動で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして再設定することができます。

● 「AUTO」設定状態からスキャン

1. 〈SUB MENU〉ボタンを押す



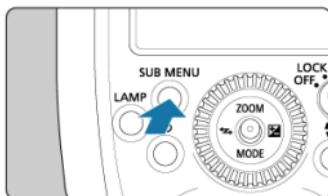
2. スキャンする

C.Fn	C.Fn clear
P.Fn	P.Fn clear
Set. clear	information
MEMORY	SCAN

- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 SCAN 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 〈 OK 〉を選びます。
- スキャンが行われ、電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

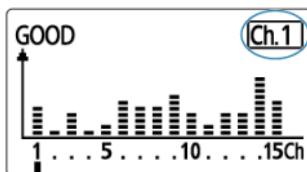
● Ch.1～15設定状態からスキャン

1. <SUB MENU> ボタンを押す

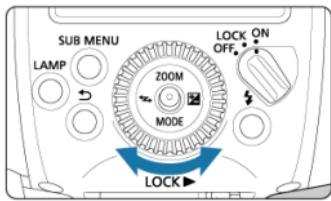


2. スキャンする

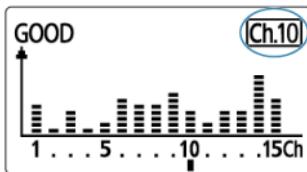
- ・ジョイスティックを上下左右に押すか、<(◎)>を回して < [SCAN] > を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ・< [OK] > を選びます。
- ・スキャンが行われ、電波状態がグラフで表示されます。
- ・グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。



3. チャンネルを設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎) を回して、Ch.1～15の中から選びます。
- ジョイスティックを垂直に押すと、チャンネルが設定されます。



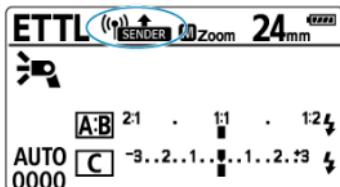
〈LINK〉 ランプ、接続表示について

〈LINK〉 ランプの点灯状態、表示パネルのアイコンで通信状態を確認することができます。

状態	内容	対処方法
点灯	通信OK	-
消灯	未接続	チャンネル、IDを確認する
消灯	台数超過	センダー+レシーバーを16台以下にする
消灯	エラー	センダー、レシーバーの電源を入れ直す
点灯	通信OK*1	-
点灯	通信OK*2	-

* 1 : センダー側をサブセンダー接続時

* 2 : センダー側を運動撮影で接続時



表示	内容	対処方法
((P) SENDER / ((P) RECEIVER)	通信OK	-
((P) SENDER / ((P) RECEIVER)	未接続	チャンネル、IDを確認する
((P) SENDER / ((P) RECEIVER)	台数超過	センダー+レシーバーを16台以下にする
	エラー	センダー、レシーバーの電源を入れ直す
((P) SUB SENDER	通信OK*1	-

* 1 : センダー側をサブセンダー接続時

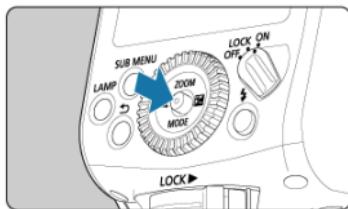
① 注意

- センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。ともに「AUTO」に設定するか、同じ番号に設定してください。
- センダーとレシーバーの電波通信IDが異なると、レシーバーは発光しません。同じ番号に設定してください。

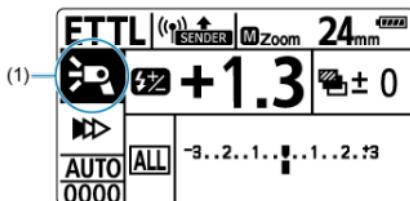
センダーストロボの発光ON/OFF

レシーバーをコントロールするセンターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。センダー発光ONのときは、発光グループAとして発光します。

1. ジョイステイックを垂直に押す

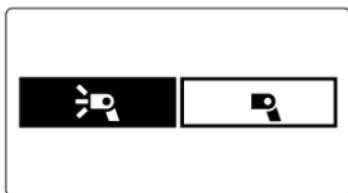


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイステイックを上下左右に押すか、(◎)を回して項目を選び、ジョイステイックを垂直に押します。

3. センダー発光を設定する



- (◎)を回してセンダー発光ON/OFFを選び、ジョイステイックを垂直に押します。

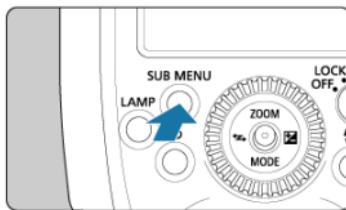
- () : センダー発光ON

- () : センダー発光OFF

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をセンター、レシーバーに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（センターまたはレシーバー）を個別に操作します。

1. 〈SUB MENU〉ボタンを押す

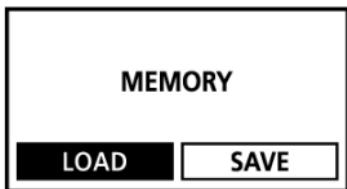


2. 〈MEMORY〉を選ぶ

C.Fn	C.Fn clear
P.Fn	P.Fn clear
Set. clear	information
MEMORY	SCAN

- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して 〈MEMORY〉 を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 設定内容を保存する／呼び出す



保存

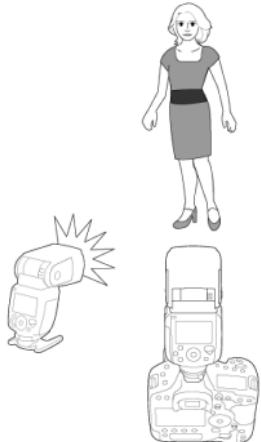
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **SAVE** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **OK** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 設定内容が保存（記憶）されます。

呼び出し

- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **LOAD** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **OK** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 保存したときの設定内容になります。

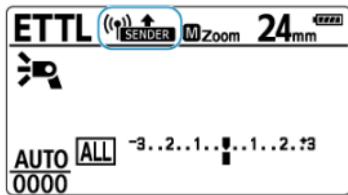
レシーバーを1灯使った自動調光撮影

- ☑ [表示パネル照明について](#)
- ☑ [ワイヤレス機能を応用した撮影](#)
- ☑ [センダーストロボについて](#)



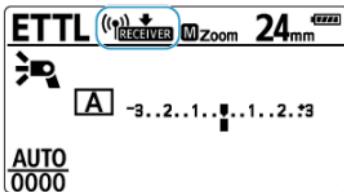
カメラに取り付けたEL-1（Ver.2）（センダー）と、レシーバーに設定したEL-1（Ver.2）を使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

1. センダーに設定する



- カメラに取り付けたEL-1（Ver.2）を「センダー」に設定します（☑）。
- 電波通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機器をセンダーとして使用することもできます。

2. レシーバーに設定する



- センダーからワイヤレス制御するEL-1(Ver.2)を「レシーバー」に設定します (④)。
- 電波通信ワイヤレスレシーバー機能を備えた、他のEXスピードライトを使用することもできます。

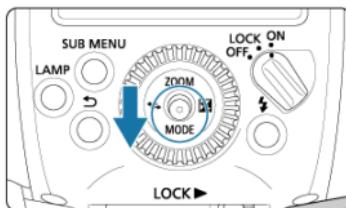
3. チャンネルとIDを確認する

- センダー／レシーバーの通信チャンネルと電波通信IDが異なるときは、同じ設定にします (④)。

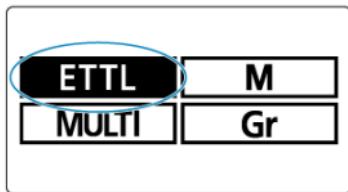
4. カメラとストロボを配置する

- [配置と作動範囲](#)に示した範囲内に配置します。

5. センダーのジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

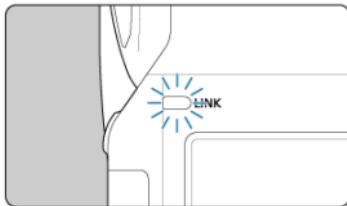


6. 発光モードを〈ETTL〉にする

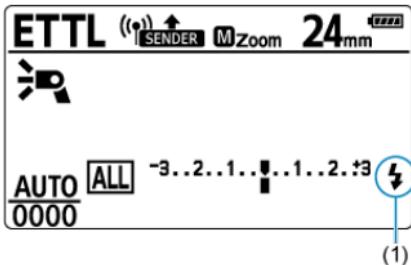


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈ETTL〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- レシーバーはセンダーからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていることを確認します。

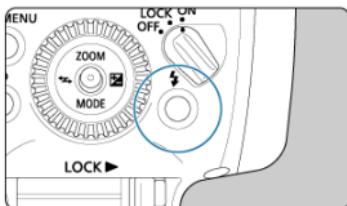
7. 通信状態と充電を確認する



- 「LINK」ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- レシーバーの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- センダーがP.Fn-06-0に設定されているときは(④)、すべてのストロボの充電が完了すると、センダーの電子音が鳴ります。

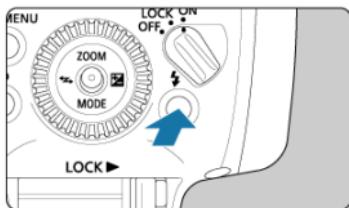


- センダーの表示パネルに、センダー／レシーバーの充電完了を表す(④)(1)が点灯していること(「CHARGE」が表示されていないこと)を確認します。
- センダーの表示パネル照明については、[表示パネル照明について](#)を参照してください。



- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。

8. 作動を確認する



- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (図)。

9. 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

!! 注意

- <LINK> ランプが消えているときは、電波通信ができていない状態です。センターとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、センターとレシーバーの電源を入れ直してください。

参考

- センダーとレシーバーの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- センダーも発光させることができます (図)。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (図)。
- センダー設定時は、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。
- カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます (C.Fn-10)。
- すべてのストロボ (センダー／レシーバー) の充電が完了したときに、電子音を鳴らすことができます (P.Fn-06)。
- レシーバーの充電が完了したときに、AF補助光の投光部の点滅を禁止することができます (C.Fn-23)。

表示パネル照明について

電波通信ワイヤレス撮影時は、センターとレシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センターの表示パネル照明が点灯／消灯します。
センターとレシーバーの充電が完了していないときは、センターの表示パネル照明が点灯します。センターとレシーバーの充電が完了すると、約12秒後に表示パネルが消灯します。
撮影を行いセンターやレシーバーの充電が開始されると、センターの表示パネル照明が再点灯します。

① 注意

- 充電が完了していないセンターやレシーバー（発光グループ）があるときは、センターの表示パネルに〈CHARGE〉が表示されます。表示パネルに〈CHARGE〉が表示されていないことを確認してから撮影してください。

ワイヤレス機能を応用した撮影

本ワイヤレスシステムでは、センダーで設定した以下の機能がレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

- ストロボ調光補正 <>
- FEB <>
- FEロック
- ハイスピードシンクロ <>
- 後幕シンクロ <>
- マニュアル発光
 - 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影
- マルチ発光



参考

- レシーバーを直接操作して、レシーバーごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。
- EL-1 (Ver.2) をセンダーに設定すると、ELシリーズ (EL-100を除く)、600EXII-RT、600EX-RT、430EXIII-RTをレシーバーに設定しての電波通信ワイヤレス後幕シンクロ撮影が可能です。

センダーストロボについて

センターを2台以上することができます。センターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（レシーバー）のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

なお、センターを2台以上にしたときは、表示パネルに〈SUB SENDER〉が表示されます。

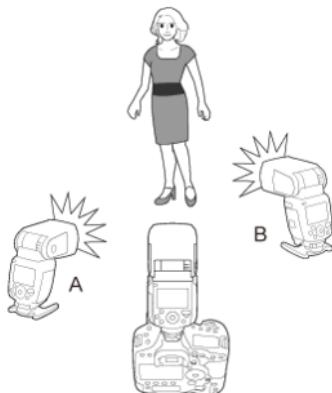
注意

- 〈LINK〉ランプが消灯、または表示パネルに〈 SENDER〉が表示されるときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、センターの電源を一つづつ入れ直してください。
- 電波通信ワイヤレス撮影時は、センターとレシーバーを合わせて16台以下にしてください。

参考

- センダーストロボがサブセンターの状態でも撮影することができます。

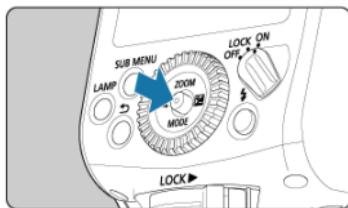
レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影



レシーバーをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

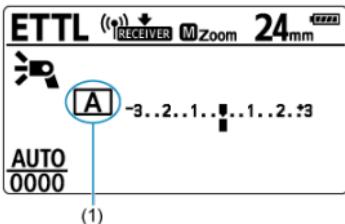
露出は、発光グループA, Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

1. ジョイスティックを垂直に押す



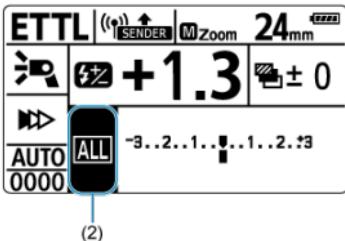
- レシーバーを操作して1台ずつ設定します。

2. レシーバーの発光グループ（1）を設定する



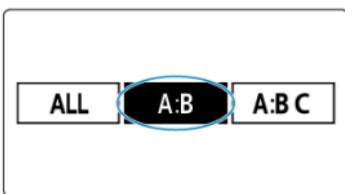
- 発光グループは、〈A〉または〈B〉を選びます。
- 1台を〈A〉、もう1台を〈B〉に設定します。

3. センダーの発光グループ（2）を設定する



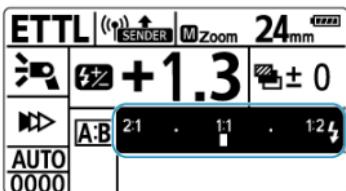
- 手順3~5はセンダーを操作して設定します。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. 〈A:B〉に設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して〈A:B〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

5. A : Bの光量比を設定する

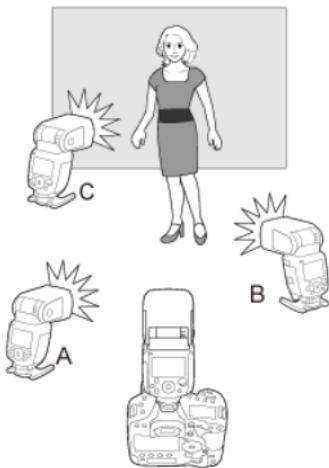


- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回してA : Bの光量比を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

6. 撮影する

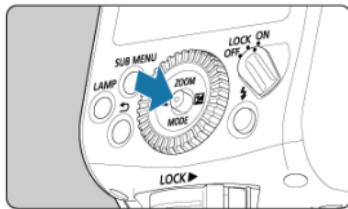
- 設定した光量比で、レシーバーが発光します。

レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影

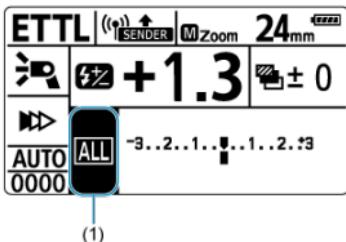


発光グループA, Bに、発光グループCを追加した多灯撮影を行うことができます。発光制御の概要については、「[グループ制御について](#)」を参照してください。
Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

1. ジョイスティックを垂直に押す

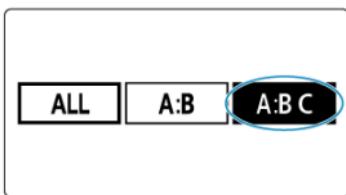


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 〈 A:B C 〉 に設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して 〈 A:B C 〉 を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

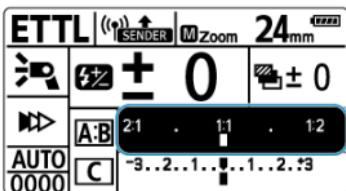
4. 発光グループA, B, Cに設定して配置する

- すべてのレシーバーがセンダーと同じ通信チャンネルと電波通信IDに設定されているか確認してください。
- 追加するレシーバーをそれぞれA, B, Cに設定し、配置します。

5. チャンネルとIDを確認する

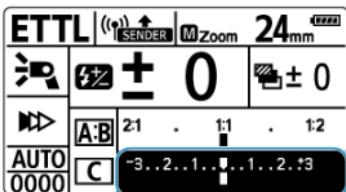
- センダー／レシーバーの通信チャンネルと電波通信IDが異なるときは、同じ設定にします (図)。

6. A : Bの光量比を設定する



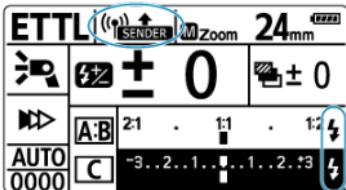
- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回してA : Bの光量比を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

7. 発光グループCの調光補正量を設定する

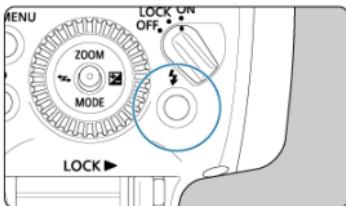


- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して補正量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

8. 通信状態と充電を確認する

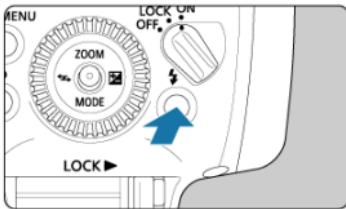


- センダーの表示パネルに 〈〉 が表示されていないことを確認します。
- センダーの表示パネルに、レシーバーの充電完了を表す 〈〉 が点灯していること (〈〉 が表示されていないこと) を確認します。
- センダーの表示パネル照明については、「[表示パネル照明について](#)」を参照してください。



- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。

9. 作動を確認する



- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (図)。

10. 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

① 注意

- 表示パネルに  が表示されているときは、電波通信ができていない状態です。センダーとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、センダーとレシーバーの電源を入れ直してください。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

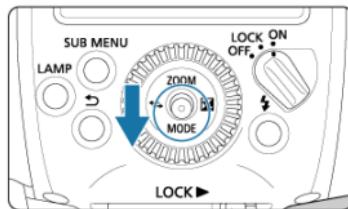
¶ 参考

- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (図)。
- センダー設定時は、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。
- カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。

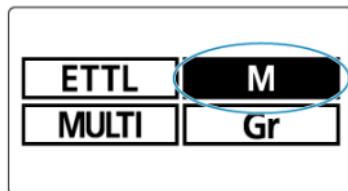
発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス多灯撮影です。発光グループごとにフル発光（1/1）から1/8192発光までの範囲で、発光量を1/3段ステップで設定して撮影することができます。設定はすべてセンダー側で行います。

1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

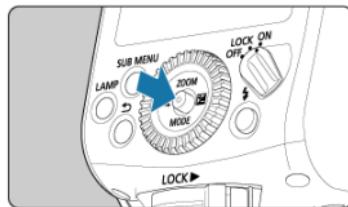


2. 発光モードを〈M〉にする

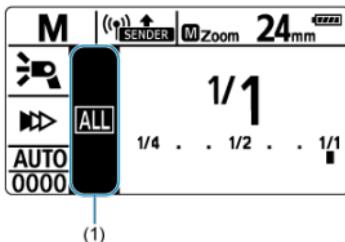


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 M 〉を選び、ジョイ스ティックを垂直に押します。

3. ジョイスティックを垂直に押します。

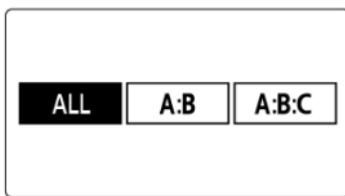


4. (1) の項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、**(◎)**を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

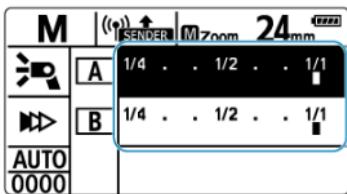
5. 発光グループを設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、**(◎)**を回して以下のの中から発光方法を選びます。発光グループA, B, Cを追加したワイヤレス多灯撮影を行なうことができます。

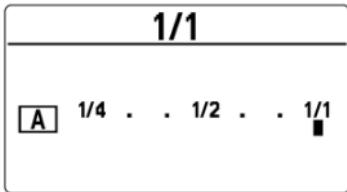
- すべてのレシーバーが同じ発光量：**(ALL)**
- 発光グループA, Bに対して発光量を設定：**(A:B)**
- 発光グループA, B, Cに対して発光量を設定：**(A:B:C)**

6. 発光グループを選ぶ



- 手順2で〈[A:B]〉または〈[A:B:C]〉を選んだときは、ジョイスティックを垂直に押し、ジョイスティックを上下に押すか、(◎)を回して発光量を設定するグループを選びます。

7. 発光量を設定する



- ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して発光量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

8. 撮影する

- 各グループが設定した発光量で発光します。

① 注意

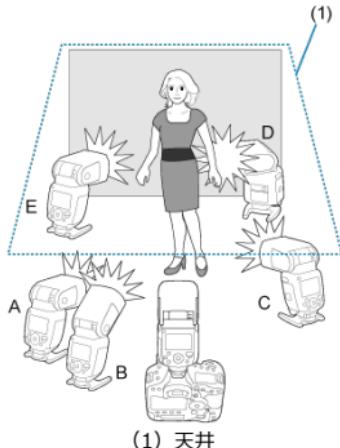
- ハイスピードシンクロ設定時および光通信ワイヤレス設定時は、設定範囲が1/1～1/128になります。
- EL-1 (Ver.2) 以外のストロボをレシーバーとして使用した場合、低い発光量を設定すると、レシーバー側では正しい発光量の値が表示されないことがあります。



参考

- 〈**ALL**〉 設定時は、レシーバーの発光グループをA, B, Cのいずれかに設定してください。D, Eに設定すると発光しません。
- 複数のレシーバーを同じ発光量で発光させるときは、手順2で〈**ALL**〉 を選びます。

グループごとに発光モードを設定した撮影



(1) 天井

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ(A, B, C, D, E)までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

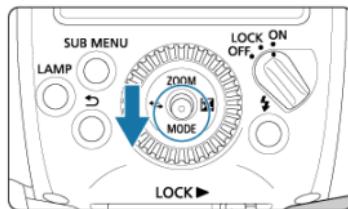
設定できる発光モードは、①E-TTL II / E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。

この機能は、ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

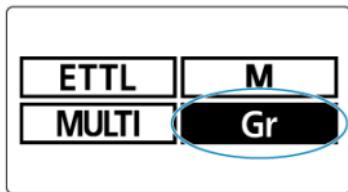
注意

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70では、〈Gr〉の発光モードでワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。最大3グループ(A, B, C)での撮影になります(図)。

1. センダーのジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

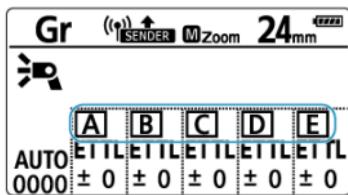


2. 発光モードを〈Gr〉にする



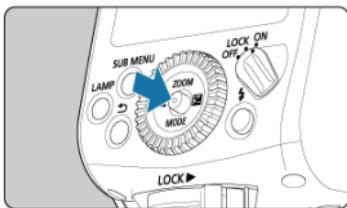
- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈Gr〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- レシーバーはセンダーからの制御により、撮影時に発光モードが自動設定されます。

3. レシーバーの発光グループを設定する

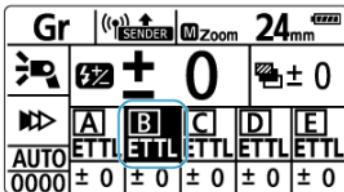


- すべてのレシーバーに発光グループ（A, B, C, D, E）を設定します。

4. 各発光グループの設定を行う



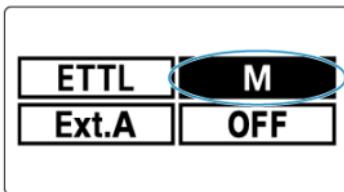
- センダーを操作して、各発光グループの発光モードを設定します。
- ジョイスティックを垂直に押します。



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎) を回して発光グループを選び、ジョイスティックを垂直に押します。

発光モードの設定

	± 0		± 0
A	ETTL	-3..2..1..0..1..2..±3	
B	ETTL	-3..2..1..0..1..2..±3	
C	ETTL	-3..2..1..0..1..2..±3	
D	ETTL	-3..2..1..0..1..2..±3	
E	ETTL	-3..2..1..0..1..2..±3	



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎) を回して **(ETTL)** **(M)** **(Ext.A)** の中から発光モードを選びます。

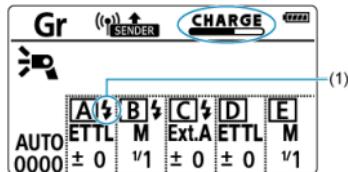
発光量／調光補正量の設定

[A] ETTL						
[B] M	1/1	1/4	1/2	1/1		
[C] ETTL						
[D] ETTL						
[E] ETTL						

[A] ETTL						
[B] M	1/1	1/4	1/2	1/1		
[C] Ext.A						
[D] ETTL						
[E] ETTL						

- ジョイスティックを上下左右に押すか、を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、を回して発光量または調光補正量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。
- のときは発光量を設定します。 のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- 手順3を繰り返して、すべての発光グループの発光機能を設定します。

5. 充電を確認して撮影する



- が表示されているときは、図の表示で充電が完了していない発光グループを確認することができます。例えば発光グループ の充電が完了したときは、(1) が表示されます。
- すべての発光グループの充電が完了すると、 の表示が消えます。
- その他の充電確認については、「[レシーバーを1灯使った自動調光撮影](#)」の手順7を参照してください。
- 各レシーバーが設定したそれぞれの発光モードで同時に発光します。

① 注意

- 発光モードを〈Ext.A〉に設定するときは、レシーバーが外部調光オートに対応しているストロボかどうかを確認してください。対応していないときは発光しません。
- 発光モードが〈ETTL〉〈Ext.A〉のときは、1つの発光グループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。

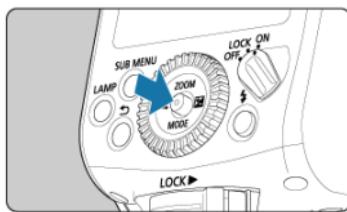
■ 参考

- 〈Ext.A〉については、外部調光オートに対応したストロボの使用説明書を参照してください。
- 発光させるグループは、A, C, Eのように連続していなくても構いません。
- 発光させたくないグループがあるときは、手順3で発光モードを設定するときに、〈OFF〉に設定します。

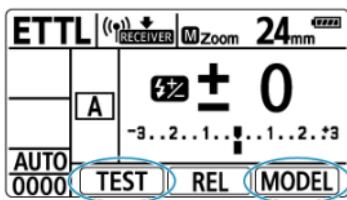
レシーバーからのテスト発光／モデリング発光

電波通信ワイヤレス撮影時に、レシーバーに設定されているEL-1 (Ver.2) からテスト発光、モデリング発光 (回) を行うことができます。

1. ジョイスティックを垂直に押す



2. 発光させる



[テスト発光]

- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎) を回して (TEST) を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

[モデリング発光] (回)

- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎) を回して (MODEL) を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- レシーバーからセンターに発光信号が送信され、ワイヤレスシステムのテスト発光、モデリング発光が行われます。

注意

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70のときは、レシーバーからのモデリング発光はできません。
- モデリング発光に関する注意事項については、「[モデリング発光](#)」を参照してください。
- センダーがC.Fn-02-1に設定されているときは（）、〈MODEL〉を選んでもモデリング発光は行われません。

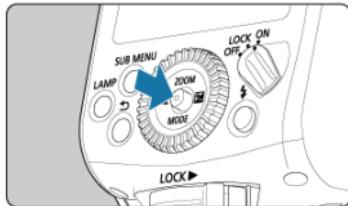
参考

- センダーが2台以上のときは（）、メインセンターに発光信号が送信されます。

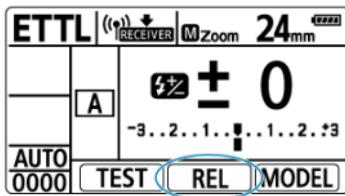
レシーバーからのリモートリリーズ

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、電波通信ワイヤレス撮影時に、レシーバーに設定されているEL-1（Ver.2）からリモートリリーズ（リモコン撮影）を行うことができます。

1. ジョイスティックを垂直に押す



2. 撮影する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈REL〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- レシーバーからセンダーにリリーズ信号が送信され、撮影が行われます。

注意

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70では、レシーバーからのリモートリリーズはできません。
- AFでピント合わせができないときは撮影は行われません。レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動ピント合わせを行ってからリリーズすることをおすすめします。



参考

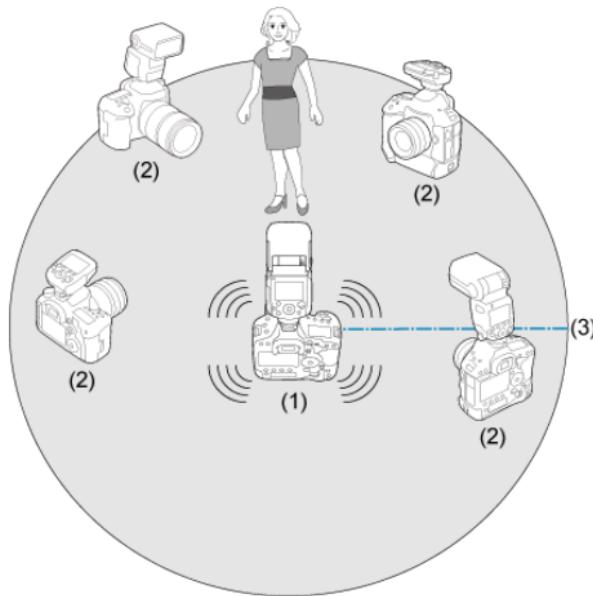
- カメラのドライブモードの設定に関わらず、「1枚撮影」でリモートレリーズが行われます。
- センダーが2台以上のときは（）、メインセンダーに発光信号が送信されます。
- レシーバーからのリモートレリーズ時は、センダーの表示パネルに〈RELEASE〉が表示されます。

電波通信による連動撮影

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ（EOS Kiss X90/X80/X70を除く）を使用すると、センダーカメラのレリーズに連動してレシーバーカメラを自動レリーズさせる「連動撮影」を行うことができます。センターとレシーバーを合わせて最大16台の連動撮影ができます。被写体を複数のアングルから一斉に撮影したいときに有効です。

連動撮影を行うときは、電波通信ワイヤレス撮影に対応したストロボ、またはスピードライトトランシッターをカメラに装着します。なお、2011年までに発売されたカメラ*、およびEOS Kiss X90/X80/X70と組み合わせたときは、「センダーカメラ」としてのみ使用できます。「レシーバーカメラ」としては使用できません。

*一部のカメラは対応できません。



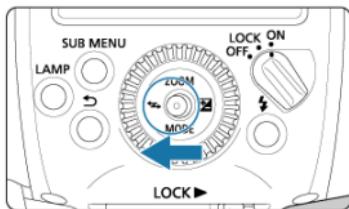
- (1) センダーカメラ
- (2) レシーバーカメラ
- (3) 通信可能距離 約30m

参考

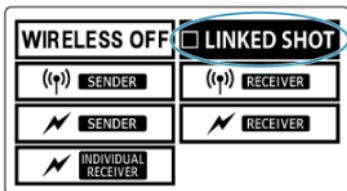
- 連動撮影機能を設定したEL-1 (Ver.2) とカメラの組み合わせを、それぞれ「センダーカメラ」「レシーバーカメラ」と呼んでいます。

以下の操作を行う前に、連動撮影を行うすべてのストロボ、トランスマッターを各カメラに装着してください。なお、他の機器の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。

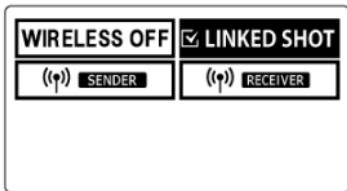
1. ジョイスティックで〈↔〉を選ぶ



2. 通常撮影に設定する

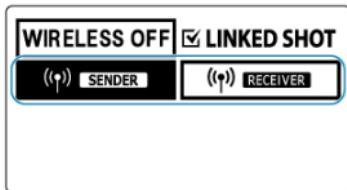


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して
〈**LINKED SHOT**〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



- 〈**LINKED SHOT**〉の表示に変わります。

3. センダー／レシーバーに設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して(❶) [SENDER] または(❷) [RECEIVER] を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. 通信チャンネル、電波通信IDを設定する

- 設定方法については、「[通信チャンネル／電波通信IDの設定](#)」を参照してください。

5. カメラの撮影機能を設定する

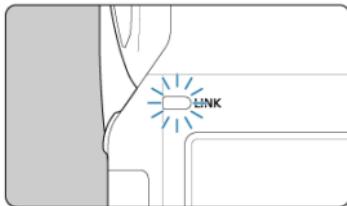
6. すべてのストロボを設定する

- 連動撮影を行うすべてのストロボを、連動撮影の「センダー」または「レシーバー」に設定します。
- 連動撮影を行うトランスマッターがあるときは、同じように設定します。
- 手順2の操作で「レシーバー」から「センダー」に変更すると、「センダー」に設定されていた他のストロボ（またはトランスマッター）が自動的に「レシーバー」になります。

7. レシーバーカメラを設置する

- センダーカメラから約30mの範囲内にすべてのレシーバーカメラを設置します。
- レシーバーの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。

8. 撮影する



- センダーの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認してから撮影します。
- センダーカメラのレリーズに運動して、レシーバーカメラがレリーズします。
- 運動撮影が行われたレシーバーは表示パネルに〈RELEASE〉と表示されます。



参考

- 運動撮影を解除するときは、ストロボを1台ずつ操作して、手順2で〈□ LINKED SHOT〉の状態にします。
- ストロボをカメラに装着せずに、運動撮影用のリモコンとして使用することもできます。センダーのジョイスティックを垂直に押してから、上下左右に押すか〈◎〉を回して〈REL.〉を選ぶと、すべてのレシーバーカメラがレリーズします。
- 運動撮影時は、オートパワーオフまでの時間がセンダー、レシーバーともに約5分になります。なお、運動撮影の間隔が5分以上のときは、センダーとレシーバーの「オートパワーオフ」の設定を、ともに「OFF」に設定してください（[C.Fn-01-1](#)）。
- P.Fn-06-0に設定すると（④）充電が完了したストロボ（センダー／レシーバー）ごとに電子音が鳴ります。

① 注意

- レシーバーカメラに装着されているレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。AFでピント合わせができないときは、そのレシーバーカメラは運動しません。
- センダーカメラのレリーズタイミングよりも、少し遅れてレシーバーカメラがレリーズします。まったく同時に撮影することはできません。
- P.Fn-03-1に設定すると（④）、運動撮影時にストロボを発光させることができますが、運動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。
- センダーカメラにて【外部ストロボ制御】または【ストロボ制御】の【ストロボの発光】が【しない】に設定されているときは（④）、運動撮影はできません。
- P.Fn-03-0設定時に（④）、ライブビュー映像を表示した状態で運動撮影ができないときは、センダーカメラのメニューの【LVソフト撮影】または【LV静音撮影】を【しない】に設定してください。カメラの機種によっては、【モード1】【モード2】に設定されていると、レシーバーカメラが運動しないことがあります。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。
- 運動撮影機能は、ワイヤレスファイルトランミッターWFTシリーズの運動撮影と同等の機能です。ただし、WFTシリーズと組み合わせて運動撮影を行うことはできません。また、レリーズタイムラグは、WFTシリーズによる運動撮影とは異なります。

① 注意

ライブビュー機能を使用した運動撮影について

- P.Fn-03-0の設定で（④）、以下のカメラと組み合わせ、センダーカメラに設定したときは、ライブビュー状態での運動撮影はできません。
- ライブビュー撮影を終了してファインダー撮影状態で運動撮影行うか、P.Fn-03-1の設定で運動撮影を行ってください。

EOS 8000D、EOS Kiss X8i、EOS Kiss X7i、EOS Kiss X6i、EOS KissX5、
EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss F

光通信ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスセンター／レシーバー機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

センター／レシーバーには、光通信ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボが使用できます。

! 注意

- カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**FvPTvAvMbulb(B)**〉（応用撮影ゾーン）にしてください。

■ 参考

- センダーストロボとレシーバーストロボにそれぞれEL-1（Ver.2）を使って説明しています。
- カメラに取り付けたEL-1（Ver.2）を「センター」、ワイヤレス制御されるEL-1（Ver.2）を「レシーバー」と呼んでいます。

- [光通信ワイヤレスストロボ撮影](#)
- [光通信ワイヤレス設定](#)
- [レシーバーを1灯使った自動調光撮影](#)
- [レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影](#)
- [レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影](#)
- [発光量を設定したワイヤレス多灯撮影](#)
- [レシーバーで設定するマニュアル発光／マルチ発光](#)

光通信ワイヤレスストロボ撮影

☑ 配置と作動範囲

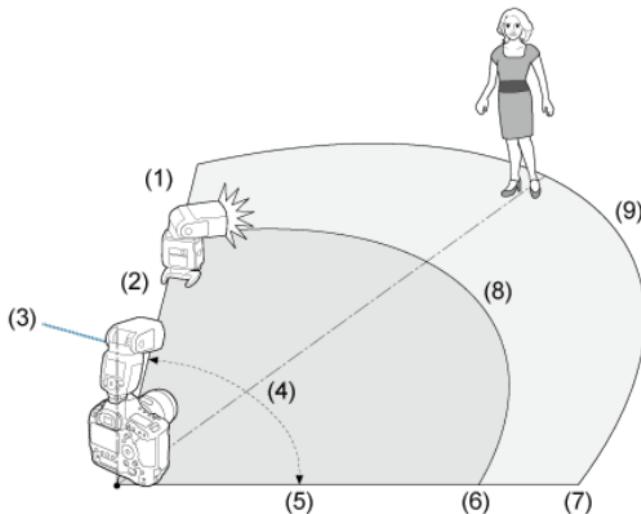
☑ グループ制御について

光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（レシーバー）を使用すると、通常のE-TTL II / E-TTL 自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

EL-1 (Ver.2) (センダー) の設定内容が、ワイヤレス制御されるEL-1 (Ver.2) (レシーバー) 側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません。

配置と作動範囲

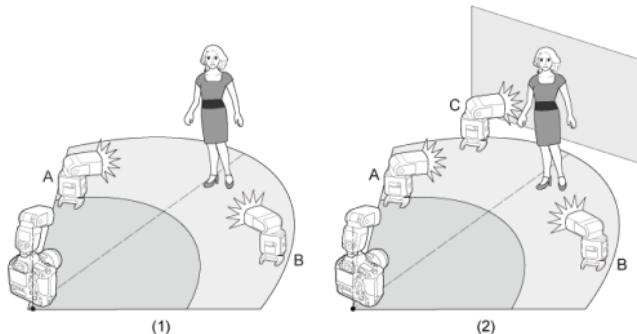
● レシーバーを1灯使った自動調光撮影 (回)



- (1) 屋内
- (2) 屋外
- (3) **SENDER**
- (4) 約80°
- (5) 通信可能範囲
- (6) 約8m
- (7) 約12m
- (8) 約10m
- (9) 約15m

● レシーバーをグループに分けた自動調光撮影 (図、図)

レシーバーを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えるながら、E-TTL II / E-TTL 自動調光撮影ができます。



- (1) 2 (A, B) グループ
- (2) 3 (A, B, C) グループ

! 注意

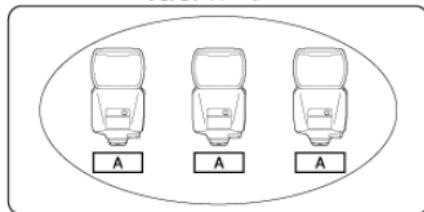
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 撮影する前に、テスト発光 (図) やテスト撮影を行ってください。
- 通信の妨げになるため、センダーとレシーバーの間に障害物を置かないでください。

参考

- レシーバーストロボに付属しているミニスタンドを使用して、レシーバーの受信部をセンダーに向けて配置します。
- 室内で撮影するときは、通信が壁面反射することにより、多少ラフな配置でも作動することがあります。

グループ制御について

発光グループA



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やすことができます。追加するレシーバーを、光量を大きくしたい発光グループ（A, B, Cのいずれか）に設定するだけです。台数に制限はありません。

例えば、3台のレシーバーの発光グループを〈A〉に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

注意

- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、〈[A:B C]〉に設定してください。〈[A:B]〉の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- E-TTL 自動調光に対応した一部のEOSフィルムカメラ使用時は、光量比を設定したワイヤレス多灯撮影はできません。

参考

- 光量比の8:1~1:1~1:8は、段数換算で3:1~1:1~1:3 (1/2段ステップ)に相当します。

光通信ワイヤレス設定

☑ [センダー設定](#)

☑ [レシーバー設定](#)

☑ [通信チャンネルの設定](#)

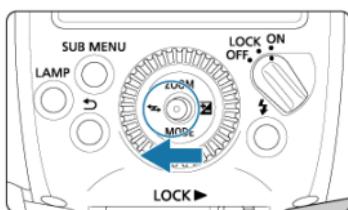
☑ [センダーストロボの発光ON/OFF](#)

☑ [メモリー機能](#)

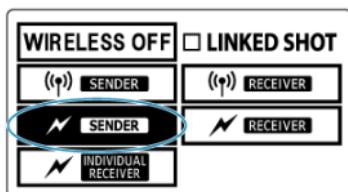
E-TTL II / E-TTL 自動調光による光通信ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、以下の手順でセンダーとレシーバーの設定を行います。

センダー設定

1. ジョイスティックで〈↔〉を選ぶ

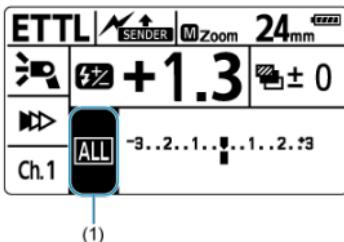


2. 〈⚡ SENDER〉に設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して
〈⚡ SENDER〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

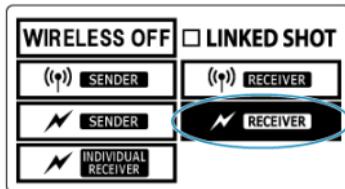
3. 発光方法を選ぶ



- ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、**Ⓐ**を回して（1）の項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、**Ⓑ**を回して **〔ALL〕**、**〔A:B〕**、**〔A:B C〕**の中から選び、ジョイスティックを垂直に押します（**Ⓐ**、**Ⓑ**）。

レシーバー設定

1. < **RECEIVER** > に設定する



- レシーバーに設定するストロボを操作して設定します。
- センダー設定と同じ操作で < **RECEIVER** > を選びます。

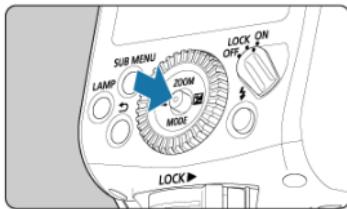
注意

- 通常のストロボ撮影を行うときは、< **WIRELESS OFF** > を選んでセンダーの設定を解除してください。

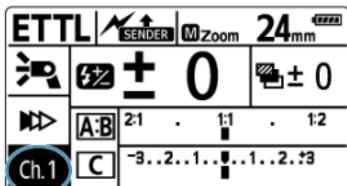
通信チャンネルの設定

以下の操作で、センターの通信チャンネルを設定します。**チャンネルは、センターとレシーバーで同じ設定にします。**なお、レシーバーの操作方法については、光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。

1. ジョイスティックを垂直に押す



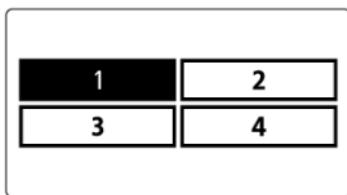
2. (1) の項目を選ぶ



(1)

- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回してチャンネルの項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 通信チャンネルを設定する



- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回してCh.1～4の中から選び、ジョイスティックを垂直に押します。

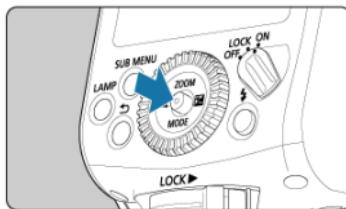
 注意

- センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。
ともに同じ番号に設定してください。

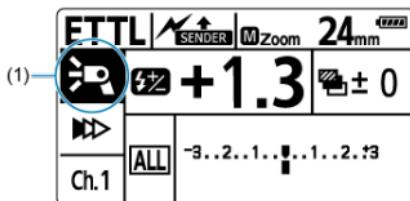
センダーストロボの発光ON/OFF

レシーバーをコントロールするセンターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。センター発光ONのときは、発光グループAとして発光します。

1. ジョイステイックを垂直に押す

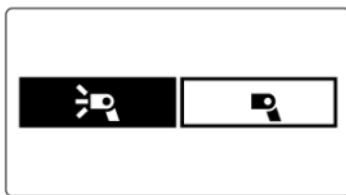


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイステイックを上下左右に押すか、(◎)を回して項目を選び、ジョイステイックを垂直に押します。

3. センダー発光を設定する



- ジョイステイックを左右に押すか、(◎)を回してセンダー発光ON/OFFを選び、ジョイステイックを垂直に押します。

- <  > : センダー発光ON

- <  > : センダー発光OFF

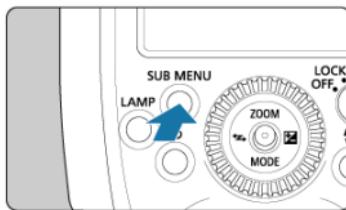
① 注意

- センダー発光をOFFにしても、レシーバーを制御するための発光（光通信）が行われます。そのため撮影条件により、レシーバーを制御するための発光が写り込むことがあります。

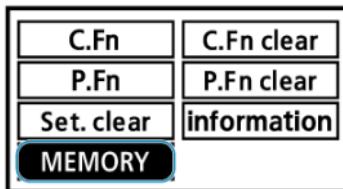
メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をセンター、レシーバーに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（センターまたはレシーバー）を個別に操作します。

1. 〈SUB MENU〉ボタンを押す

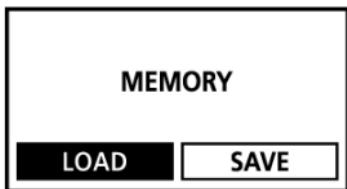


2. 〈MEMORY〉を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈MEMORY〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 設定内容を保存する／呼び出す



保存

- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **SAVE** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **OK** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 設定内容が保存（記憶）されます。

呼び出し

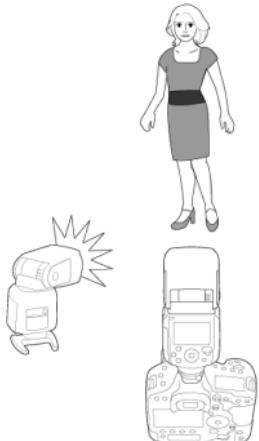
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **LOAD** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して〈 **OK** 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 保存したときの設定内容になります。

レシーバーを1灯使った自動調光撮影

☑ [複数のレシーバーを使った自動調光撮影](#)

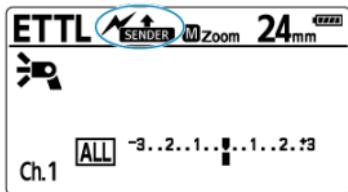
☑ [ワイヤレス機能を応用した撮影](#)

☑ [センダーストロボについて](#)



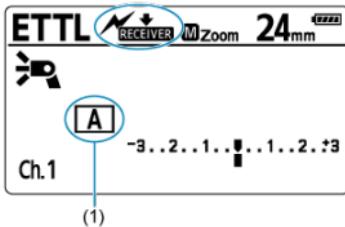
カメラに取り付けたEL-1 (Ver.2) (センダー) と、レシーバーに設定したEL-1 (Ver.2) を使った、基本的な全自动ワイヤレス撮影について説明します。

1. センダーに設定する



- カメラに取り付けたEL-1 (Ver.2) を「センダー」に設定します (☑)。
- 光通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機器をセンダーとして使用することもできます。

2. レシーバーに設定する



- センダーからワイヤレス制御するEL-1（Ver.2）を「レシーバー」に設定します（[図](#)）。
- 光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えた、他のEXスピードライトを使用することもできます。
- 発光グループ（1）は、A, B, Cのどれでも構いません。

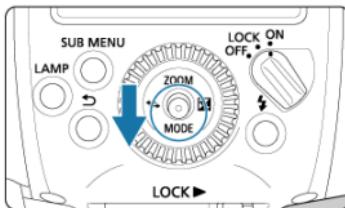
3. チャンネルを確認する

- センダー／レシーバーの通信チャンネルが異なるときは、同じ設定にします（[図](#)）。

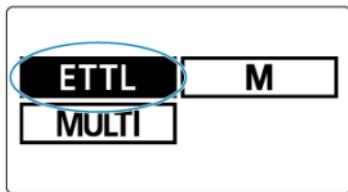
4. カメラとストロボを配置する

- [配置と作動範囲](#)に示した範囲内に配置します。

5. センダーのジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ



6. 発光モードを〈ETTL〉にする

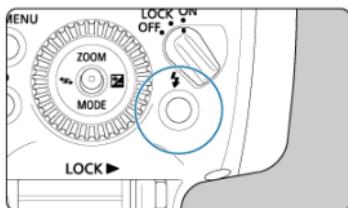


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈ETTL〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- レシーバーはセンダーからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていることを確認します。

7. 充電を確認する

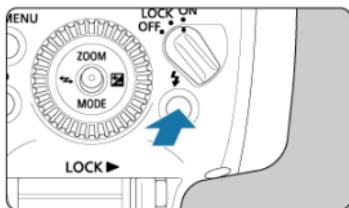


- レシーバーの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。



- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。

8. 作動を確認する



- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (図)。

9. 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

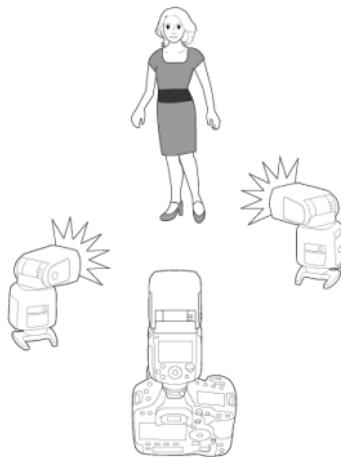
!! 注意

- レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレシーバーが誤動作して、意図せず発光することがあります。
- 光通信ワイヤレス撮影時は、電波通信ワイヤレス撮影時のように、充電が完了していないセンダーやレシーバー（発光グループ）があっても、センダーの表示パネルに〈CHARGE〉は表示されません（センダー発光OFF時）。また、センダーとレシーバーの充電状態に応じて、センダーの表示パネル照明が点灯／消灯する機能はありません。
- センダーがP.Fn-06-0に設定されているときは（図）、センダーの充電が完了すると電子音が鳴ります（電波通信ワイヤレス撮影時のように、すべてのストロボの充電が完了したことを示す電子音ではありません）。

参考

- センダーとレシーバーの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- センダーも発光させることができます（[④](#)）。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます（[⑤](#)）。
- レシーバーがオートパワーOFF状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。
- カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。
- レシーバーがオートパワーOFF状態になるまでの時間を変更することができます（[C.Fn-10](#)）。
- レシーバーの充電が完了したときに、AF補助光の投光部の点滅を禁止することができます（[C.Fn-23](#)）。

複数のレシーバーを使った自動調光撮影



より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。

レシーバーを追加して、「レシーバーを1灯使った自動調光撮影」(④)と同じ手順で撮影します。発光グループは、A, B, Cのどれでも構いません。

レシーバーの台数を増やしたときや、センター発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

ワイヤレス機能を応用した撮影

本ワイヤレスシステムでは、センターで設定した以下の機能がレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

- [ストロボ調光補正](#) (52)
- [FEB](#) (24)
- [FEロック](#)
- [ハイスピードシンクロ](#) (44)
 - [マニュアル発光](#)
 - [発光量を設定したワイヤレス多灯撮影](#)
- [マルチ発光](#)

① 注意

- 光通信ワイヤレス撮影時にマルチ発光を行うときは、発光周波数が1~199Hzになります (250~500Hz不可)。

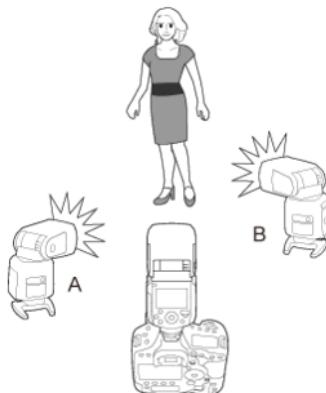
■ 参考

- レシーバーを直接操作して、レシーバーごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。

センダーストロボについて

センターを2台以上することができます。センターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（レシーバー）のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

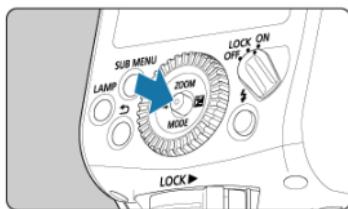
レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影



レシーバーをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

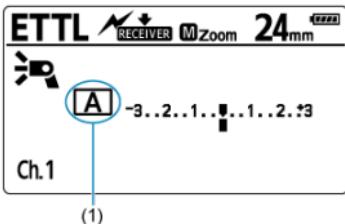
露出は、発光グループA, Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

1. ジョイスティックを垂直に押す



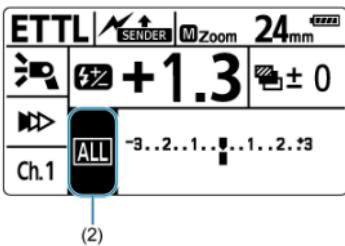
- レシーバーを操作して1台ずつ設定します。

2. レシーバーの発光グループ（1）を設定する



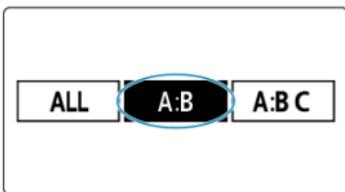
- 発光グループは、〈A〉または〈B〉を選びます。
- 1台を〈A〉、もう1台を〈B〉に設定します。

3. センダーの発光グループ（2）を設定する



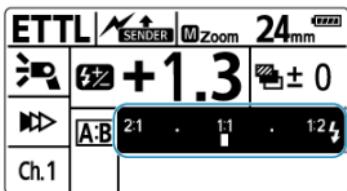
- 手順3~5はセンダーを操作して設定します。
- ジョイスティックを上下左右に押すか、(◎)を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

4. 〈A:B〉に設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して〈A:B〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

5. A : Bの光量比を設定する

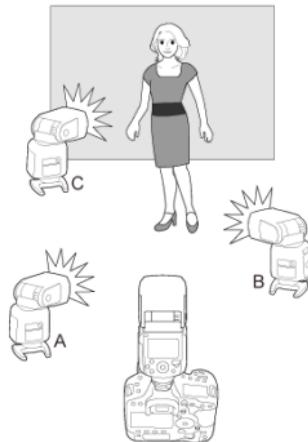


- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回してA : Bの光量比を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

6. 撮影する

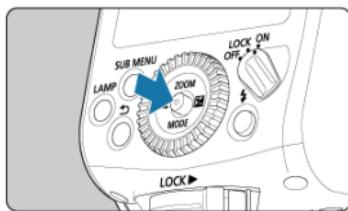
- 設定した光量比で、レシーバーが発光します。

レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影

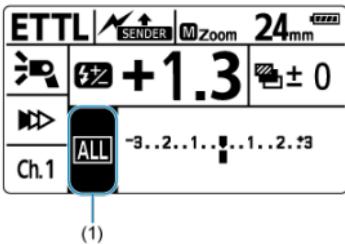


発光グループA, Bに、発光グループCを追加した多灯撮影を行うことができます。発光制御の概要については、「[グループ制御について](#)」を参照してください。
Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

1. ジョイスティックを垂直に押す

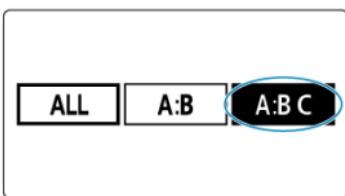


2. (1) の項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

3. 〈 A:B C 〉 に設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回して 〈 A:B C 〉 を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

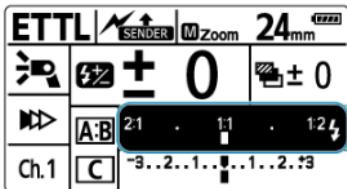
4. 発光グループA, B, Cに設定して配置する

- すべてのレシーバーがセンダーと同じ通信チャンネルに設定されているか確認してください。
- 追加するレシーバーをそれぞれA, B, Cに設定し、配置します。

5. 通信チャンネルを確認する

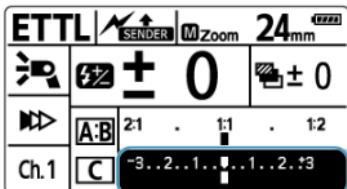
- センダーとレシーバーのチャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します (図)。

6. A : Bの光量比を設定する



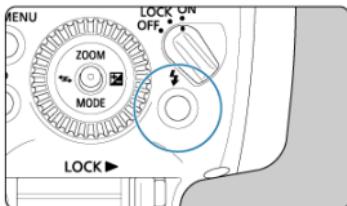
- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回してA : Bの光量比を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

7. 発光グループCの調光補正量を設定する



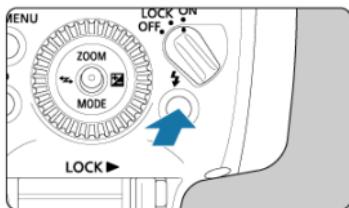
- ジョイスティックを垂直に押して、図の項目を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して補正量を設定し、ジョイスティックを垂直に押します。

8. 充電を確認する



- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。
- レシーバーの充電が完了していることを確認します。

9. 作動を確認する



- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- 発光グループA, B, Cが発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか確認してください。

10. 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

!! 注意

- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、〈[A:B:C]〉に設定してください。〈[A:B]〉の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- E-TTL 自動調光に対応した一部のEOSフィルムカメラ使用時は、光量比を設定したワイヤレス多灯撮影はできません。
- レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレシーバーが誤動作して、意図せずに発光することがあります。

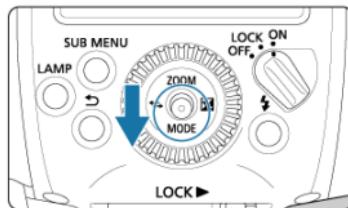
参考

- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (図)。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。
- カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。

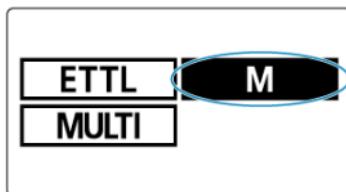
発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス多灯撮影です。発光グループごとにフル発光（1/1）から1/128発光までの範囲で、発光量を1/3段ステップで設定して撮影することができます。設定はすべてセンダー側で行います。

1. ジョイスティックで〈MODE〉を選ぶ

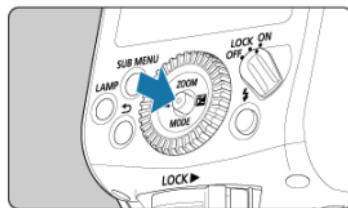


2. 発光モードを〈M〉にする

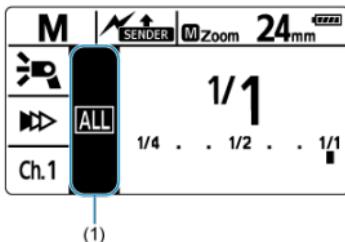


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 M 〉を選び、ジョイ스ティックを垂直に押します。

3. ジョイスティックを垂直に押す

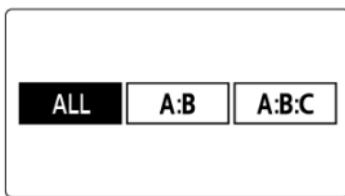


4. (1) の項目を選ぶ



- ジョイスティックを上下左右に押すか、 $\langle \odot \rangle$ を回して項目を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

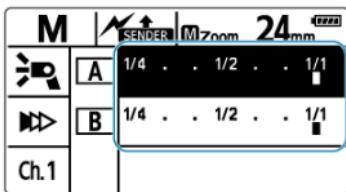
5. 発光グループを設定する



- ジョイスティックを左右に押すか、 $\langle \odot \rangle$ を回して以下の中から発光方法を選びます。発光グループA, B, Cを追加したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

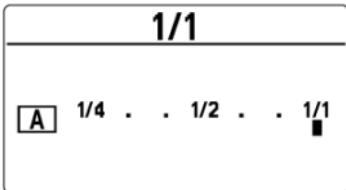
- すべてのレシーバーが同じ発光量： $\langle \boxed{\text{ALL}} \rangle$
- 発光グループA, Bに対して発光量を設定： $\langle \boxed{\text{A:B}} \rangle$
- 発光グループA, B, Cに対して発光量を設定： $\langle \boxed{\text{A:B:C}} \rangle$

6. 発光グループを選ぶ



- 手順2で〈[A:B]〉または〈[A:B:C]〉を選んだときは、ジョイステイックを垂直に押し、ジョイステイックを上下に押すか、(◎)を回して発光量を設定するグループを選びます。

7. 発光量を設定する



- ジョイステイックを垂直に押します。
- ジョイステイックを左右に押すか、(◎)を回して発光量を設定し、ジョイステイックを垂直に押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

8. 撮影する

- 各グループが設定した発光量で発光します。



参考

- 〈[ALL]〉に設定したときは、レシーバーの発光グループの設定はA, B, Cのどれでも構いません。すべてのグループが設定した発光量で発光します。

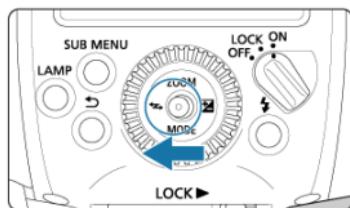
レシーバーで設定するマニュアル発光／マルチ発光

☑ マニュアル発光

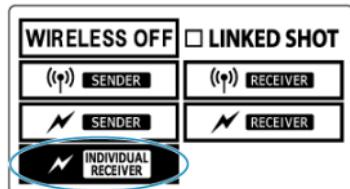
☑ マルチ発光

レシーバーを直接操作して、マニュアル発光、マルチ発光の手動設定を行うことができます。この機能を「単独レシーバー」といいます。スピードライトトランシッターST-E2(別売)を使用して、ワイヤレスマニュアル発光、ワイヤレスマルチ発光を行うときなどに利用します。

1. ジョイスティックで〈↔〉を選ぶ

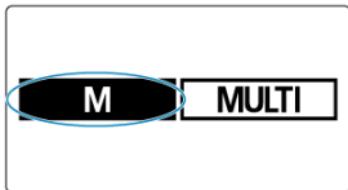


2. 単独レシーバーに設定する



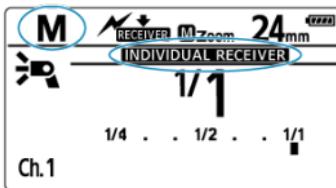
- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して
〈 INDIVIDUAL RECEIVER〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。
- 表示パネルに〈INDIVIDUAL RECEIVER〉が表示されます。

3. 発光モードを設定する



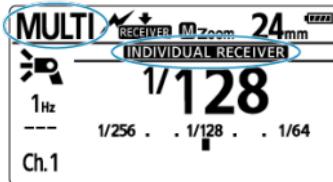
- ジョイスティックで〈MODE〉を選びます。
- ジョイスティックを左右に押すか、(◎)を回して〈 M 〉または〈 MULTI 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

マニュアル発光



マニュアル発光量を設定します。設定方法については、「[マニュアル発光](#)」を参照してください。

マルチ発光



マルチ発光の設定を行います。設定方法については、「[マルチ発光](#)」を参照してください。

! 注意

- 光通信ワイヤレス撮影時にマルチ発光を行うときは、発光周波数が1～199Hzになります（250～500Hz不可）。

参考

- 単独レシーバーに設定したレシーバーは、センダーから発光モードの制御は受けません。単独レシーバーで設定した発光モードで発光します。

ストロボのカスタマイズ

この章では、カスタム機能（C.Fn）、パーソナル機能（P.Fn）によるストロボのカスタマイズについて説明しています。

① 注意

- カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**FvPTvAvMB**)〉（応用撮影ゾーン）にしてください。

- [カスタム／パーソナル機能の設定方法](#)
- [カスタム機能で変更できる内容](#)
- [パーソナル機能で変更できる内容](#)

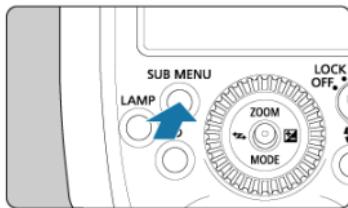
カスタム／パーソナル機能の設定方法

- ☒ [C.Fn : カスタム機能](#)
- ☒ [P.Fn : パーソナル機能](#)
- ☒ [カスタム機能一覧](#)
- ☒ [パーソナル機能一覧](#)
- ☒ [カスタム機能／パーソナル機能一括解除](#)

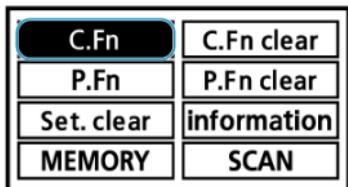
撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。この機能をカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、EL-1 (Ver.2) 特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn : カスタム機能

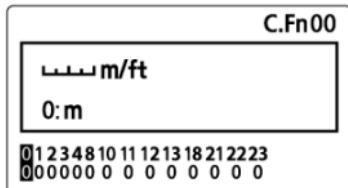
1. <SUB MENU> ボタンを押す



2. カスタム機能画面にする

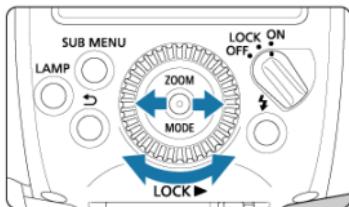


- ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して〈 C.Fn 〉を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



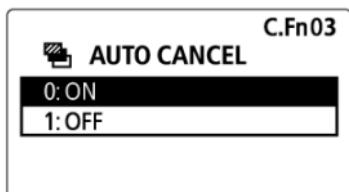
- カスタム機能画面が表示されます。

3. 設定する項目を選ぶ



- ジョイスティックを左右に押すか、(◎) を回して設定する項目（番号）を選びます。

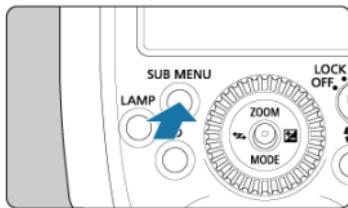
4. 設定内容を変更する



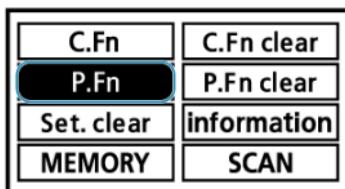
- ジョイスティックを垂直に押します。
- ジョイスティックを上下に押すか、(◎) を回して希望する設定内容を選び、ジョイスティックを垂直に押します。

P.Fn : パーソナル機能

1. <SUB MENU> ボタンを押す

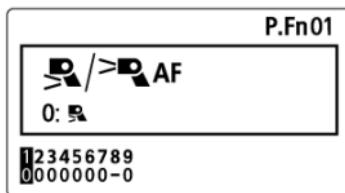


2. パーソナル機能画面にする



- カスタム機能の手順2と同じ操作で < P.Fn > を選び、ジョイステイクを垂直に押します。

3. 機能を設定する



- カスタム機能の手順3、4と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

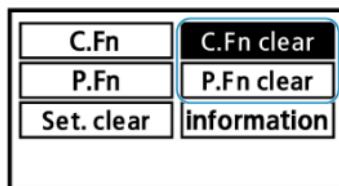
カスタム機能一覧

番号	項目
C.Fn-00	〈 m/ft 〉
C.Fn-01	〈 〉
C.Fn-02	〈 MODELING FLASH 〉
C.Fn-03	〈 AUTO CANCEL 〉
C.Fn-04	〈 〉
C.Fn-08	〈 AF 〉
C.Fn-10	〈 〉
C.Fn-11	〈 RECEIVER 〉
C.Fn-12	〈 〉
C.Fn-13	〈 〉
C.Fn-18	〈 MODELING LAMP 〉
C.Fn-21	〈 / / 〉
C.Fn-22	〈 〉
C.Fn-23	〈 〉

パーソナル機能一覧

番号	項目	
P.Fn-01	⟨ / > AF ⟩	AF補助光の投光方式
P.Fn-02	⟨ QUICK ⟩	クイック発光
P.Fn-03	⟨ LINKED SHOT ⟩	連動撮影時の発光
P.Fn-04	⟨ DIRECT ⟩	ダイヤルでの設定変更
P.Fn-05	⟨ FEM ⟩	FEメモリー
P.Fn-06	⟨ ⟩	電子音
P.Fn-07	⟨ ⟩	ファン
P.Fn-08	⟨ MODELING LAMP ⟩	モデリングランプ (明るさ、色)
P.Fn-09	⟨ MODELING LAMP ⟩	モデリングランプ (点灯時間)

カスタム機能／パーソナル機能一括解除



上の画面で〈C.Fn clear〉または〈P.Fn clear〉を選び、〈OK〉を選ぶと、カスタム機能、またはパーソナル機能を一括解除することができます。

注意

- カスタム機能の一括解除を行っても、C.Fn-00は解除されません。

参考

- カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定／一括解除することができます (☞)。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-00 : m/ft (距離表示)

表示パネルの距離表示を、メートル／フィートから選ぶことができます。

- 0 : m (メートル表示)
- 1 : ft (フィート表示)

参考

- 調光可能な距離が18m/60ft.を超えるときは、表示パネルの調光連動範囲の右端が
〈▶〉になります。

C.Fn-01 : (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

- 0 : ON (入)
- 1 : OFF (切)

参考

- 電波通信ワイヤレス撮影時のセンダーストロボ (④)、連動撮影 (⑤) のときは、
オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

C.Fn-02 : MODELING FLASH (モデリング発光)

- 0 :  (する : 絞り込みボタン)
カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光します。
- 1 :  (する : テスト発光ボタン)
ストロボのテスト発光ボタンを押すとモデリング発光します。
- 2 : / (両方のボタンで発光する)
カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。
- 3 : OFF (しない)
モデリング発光を禁止します。

C.Fn-03 : AUTO CANCEL (FEB自動解除)

FEBで3枚の撮影を行ったあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

- 0 : ON (する)
- 1 : OFF (しない)

C.Fn-04 : (FEB撮影順序)

FEBの撮影順序を変更することができます。0：補正なし、-：マイナス補正（暗く）、+：プラス補正（明るく）の意味です。

- 0 : 0→-→+
- 1 : -→0→+

C.Fn-08 : AF (AF補助光の投光)

- 0 : ON (する)
- 1 : OFF (しない)

ストロボからのAF補助光の投光を禁止します。

参考

- C.Fn-08設定時に表示されるストロボのマークは、P.Fn-01 (②) の設定に応じて変わります。

C.Fn-10 : (レシーバーのオートパワーオフ時間)

電波通信／光通信ワイヤレスレシーバー設定時に、オートパワーオフ機能が作動するまでの時間を変更することができます。なお、レシーバーがオートパワーオフ状態になると、表示パネルに〈〉が表示されます。この機能はレシーバーごとに設定します。

- 0 : 60min (60分)
- 1 : 10min (10分)

C.Fn-11 : (レシーバーのオートパワーオフ解除)

電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影時にセンダーのテスト発光ボタンを押すと、オートパワーオフ状態になったレシーバーの電源を入れることができます。

オートパワーオフ状態のレシーバーが、この機能を受け付ける時間を変更することができます。この機能はレシーバーごとに設定します。

- 0 : 8h (8時間以内)
- 1 : 1h (1時間以内)

C.Fn-12 : (外部電源使用時の充電)

- 0 :  +  (ストロボ本体と外部電源)

内部電源と外部電源を使用した充電を行います。

- 1 :  (外部電源のみ)

ストロボを制御するために内部電源が必要ですが、ストロボを発光させるための充電は外部電源を使用するため、内部電源の消耗を抑えることができます。

C.Fn-13 : (調光補正の設定方法)

- 0 :  +  (ボタン+ダイヤル)

- 1 :  (ダイヤルで直接設定)

ジョイスティックで〈〉を選ばずに直接〈〉を回して調光補正量や発光量を設定することができます。

C.Fn-18 : MODELING LAMP (モデリングランプ点灯)

モデリングランプの点灯方法を選ぶことができます。

- 0 : <**LAMP**> (ボタン)

- 1 : < x2> (シャッターボタン半押し2回)



参考

- 1に設定しても〈**LAMP- カメラのメニュー画面では「マクロ・フォーカシングランプ点灯」と表示されますが、設定できる内容は「モデリングランプ点灯」です。
- EOS D60、EOS D30と組み合わせたときは、シャッターボタンの半押しを素早く2回行っても正しく動作しません。〈**LAMP****

C.Fn-21 : // (配光特性)

照射角を〈A〉(自動設定)に設定したときの、撮影画角に対するストロボ光の配光(照射角)特性を変更することができます。

- 0 :  (標準)

撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

- 1 :  (ガイドナンバー優先)

0設定時よりも写真の周辺部分が少し暗くなりますが、光量を優先したいときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや望遠側寄りに照射角が自動設定されます。表示が〈〉になります。

- 2 :  (配光優先)

0設定時よりもストロボ撮影できる距離が少し短くなりますが、写真の周辺部分の光量低下を抑えたいときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや広角側寄りに照射角が自動設定されます。表示が〈〉になります。

C.Fn-22 : (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネルが照明されます。この照明の設定を変更することができます。

- 0 : 12sec (12秒間照明)

- 1 : OFF (照明しない)

- 2 : ON (常時照明)

C.Fn-23 : // (レシーバーの充電確認)

ワイヤレスストロボ撮影時にレシーバーの充電が完了すると、レシーバーのAF補助光の投光部が点滅しますが、この点滅を禁止することができます。この機能はレシーバーごとに設定します。

- 0 : // (AF補助光点滅とランプ)

- 1 : / (ランプ)

パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01 : / (AF補助光の投光方式)

AF補助光の投光方式を選ぶことができます。

- 0 : (赤外光方式)

- 1 : (ストロボ間欠発光方式)

ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光します (図)。

① 注意

- ライブビュー撮影時は、AF補助光は投光されません。
- カラーフィルター装着時は (図)、ストロボ間欠発光によるAF補助光は投光されません。
- EOS Rシリーズでは、カラーフィルターの装着やAF補助光の投光方式に関わらず、ストロボ間欠発光によるAF補助光が投光されます。ただし、周囲の明るさにより、ストロボではなくカメラのAF補助光が投光される場合があります。また、カラーフィルターを装着し、[1 : (ストロボ間欠発光方式)] に設定しているときは、カメラのAF補助光が投光されます。
- EOS Mシリーズでは、ストロボでのAF補助光は投光されません。

P.Fn-02 : QUICK (クイック発光)

充電の待ち時間を短くするため、充電ランプが赤色点滅（フル充電前）の状態で発光させるか（クイック発光を行うか）どうかを設定することができます。

- 0 : ON (する)

- 1 : OFF (しない)

① 注意

- 連続撮影時 (図) にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになります。

P.Fn-03 : LINKEDSHOT (連動撮影時の発光)

連動撮影時に（）、カメラに装着しているストロボを発光させるかどうかを設定することができます。連動撮影を行なうストロボごとに設定します。

- **0 : OFF (しない)**

連動撮影時にストロボは発光しません。

- **1 : ON (する)**

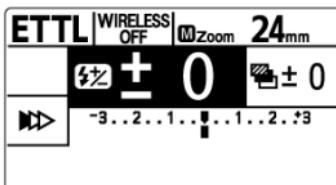
連動撮影時にストロボが発光します。

! 注意

- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。

P.Fn-04 : DIRECT (ダイヤルでの設定変更)

ジョイスティックを垂直に押して図のような設定画面のときに、〈◎〉を回すだけで下記の機能を直接設定できるようにするかどうかを選ぶことができます。



	± 0	± 0
[A]	ETTL ± 0	-3..2..1...1..2..3
[B]	ETTL ± 0	-3..2..1...1..2..3
[C]	ETTL ± 0	-3..2..1...1..2..3
[D]	ETTL ± 0	-3..2..1...1..2..3
[E]	ETTL ± 0	-3..2..1...1..2..3

- 0 : OFF (しない)

通常の操作方法です。

- 1 : ON (する)

ジョイスティックで「調光補正量」「マニュアル発光量」「発光グループ制御」「光量比」「グループ発光時の各グループの発光モード」「レシーバーの発光グループ」「FEB」の項目を選び、〈◎〉を回すだけで、直接設定することができます。

発光モードが〈MULTI〉のときは「発光周波数」「発光回数」、〈Ext.M〉のときは「ISO感度」「絞り数値」を直接設定することができます。

! 注意

- P.Fn-04-1設定時に設定画面で項目を選ぶ場合は、ジョイスティックを上下左右に押してください。

P.Fn-05 : FEM (FEメモリー)

ETTL発光の発光量にあわせて、保持しているマニュアルモード発光量を更新するかどうかを選択することができます。

- 0 : OFF (切)
- 1 : ON (入)
- 2 : ON/~~MODE~~ETTL↔M

参考

- P.Fn-05-2設定時は、ジョイスティックを下に倒して〈MODE〉を選んでも、〈ETTL〉と〈M〉以外のモードに変更できません。他のモードを選びたい場合は、ジョイスティックを垂直に押して設定画面を表示し、ジョイスティックを上下左右に押すか、〈◎〉を回して項目を選び、モードを選ぶことができます。

P.Fn-06 : ↘ (電子音)

ストロボの充電が完了したときに電子音を鳴らすことができます。

● 0 : ON (入)

通常のストロボ（クリップオン）撮影のときは、充電が完了すると電子音が鳴ります。電波通信ワイヤレスセンター設定時は、すべてのストロボ（センター／レシーバー）の充電が完了したときにセンターの電子音が鳴ります。センターの電子音でワイヤレスシステム全体の充電確認を行うことができます。なお、レシーバーのP.Fn-06の設定は、0, 1のどちらでも構いません。光通信ワイヤレスセンター設定時、および電波通信／光通信ワイヤレスレシーバー設定時、連動撮影時（）は、充電が完了すると0に設定したストロボごとに電子音が鳴ります。

● 1 : OFF (切)

電子音は鳴りません。

! 注意

- 0設定時は、発光部やバッテリーの温度が上昇して発光制限（）が行われているときも電子音が鳴ります。

P.Fn-07 : (ファン)

ファンを動作させるかどうかを設定することができます。

- 0 : ON (入)
- 1 : OFF (切)

! 注意

- ファンが故障したり、回転数が多いときは、警告が表示されファンが停止します。

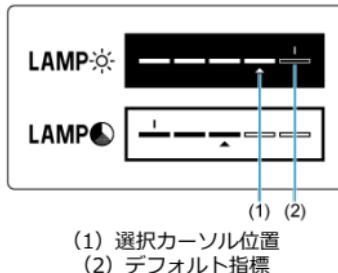


- ストロボをカメラに接続した状態でのカメラ動画撮影では、ファンの駆動音が録音される可能性があります。
- P.Fn-07-1設定時は、ファンを強制的に停止させることができます。
- P.Fn-07-1設定時は、ファンを駆動しているときよりも連続発光回数が減り、警告表示が解除されるまでの必要休止時間が延びます。
- P.Fn-07-0設定時は、発光またはモデリングライト点灯によってファンが駆動します。ストロボ内部温度の状態によっては発光しなくともファンが駆動することがあります。
- ファンが故障したときは、P.Fn-07の設定に関わらずファン停止状態と同じ連続発光回数（）になります。

P.Fn-08 : MODELING LAMP \odot (モデリングランプ (明るさ、色))

モデリングランプの明るさ、色を設定することができます。

ジョイスティックで〈LAMP \odot 〉または〈LAMP \bullet 〉項目を選びます。〈◎〉を回して希望する設定内容を選び、ジョイスティックを垂直に押します。



- LAMP \odot : ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回してモデリングランプの明るさを設定できます。
- LAMP \bullet : ジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回してモデリングランプの色温度を設定できます。

参考

- モデリングランプ点灯中もジョイスティックを左右に押すか、〈◎〉を回してジョイスティックを垂直押すと、明るさや色温度を変更することができます。

P.Fn-09 : MODELING LAMP \odot (モデリングランプ (点灯時間))

モデリングランプの点灯時間を設定することができます。

- 0 : 5min
- 1 : 30min
- 2 : Unlimited

資料

この章では、ストロボシステムやよくある質問について説明しています。

- [温度上昇による発光制限について](#)
- [故障かな？と思ったら](#)
- [主な仕様](#)
- [アクセサリーについて](#)
- [修理対応について](#)
- [電波通信ワイヤレス機能について](#)

温度上昇による発光制限について

▣ 温度上昇警告

▣ 連続発光回数と休止時間

ストロボを使用した連続撮影やマルチ発光、モデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近の温度が高くなることがあります。

繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、発光間隔が約4秒までの範囲で段階的に長くなります。その状態でさらに繰り返し発光を行うと、自動的に発光制限が行われます。

なお、発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔（ストロボ撮影できる間隔）が強制的に約8秒（レベル1）、約20秒（レベル2）になります。

温度上昇警告

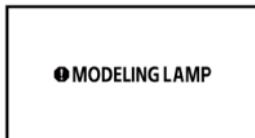
ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。レベル1の状態でさらに繰り返し発光を行うと、レベル2の状態になります。

表示／音	レベル1 (発光間隔：約8秒)	レベル2 (発光間隔：約20秒)
マーク	●	●
表示パネル照明	点灯	点滅
電子音	P.Fn-06-0設定時：警告音あり	

モデリングランプ温度上昇警告

モデリングランプの温度が上昇すると以下の警告画面が表示されます。

警告画面でジョイスティックを垂直に押したり、(➡) ボタンを押すと、警告表示が消えます。

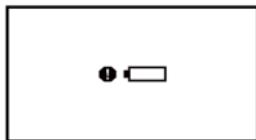


モデリングランプの周囲環境温度が高温になった場合、明るさが低下、または消灯することがあります。

表示	レベル1		レベル2	
	点灯時	非点灯時	点灯時	非点灯時
明るさ	明るさ最大設定時：減光		消灯	

バッテリー温度上昇警告

バッテリーの温度が上昇すると以下のマークが表示されます。その後、温度上昇警告 (④) と同じ状態表示になります。



連続発光回数と休止時間

警告表示（レベル1）までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間の目安は、次のとおりです。

機能		警告表示（レベル1）までの連続発光回数（目安）		必要休止時間（目安）	
		照射角			
		14mm～135mm	150mm～200mm		
連続フル発光 	ファン駆動	170回以上	160回以上	50分以上	
	ファン停止	50回以上			
モデリング発光 	ファン駆動	130回以上			
	ファン停止	50回以上			
マルチ発光 		発光条件により異なる		-	

* マニュアル発光に設定し、当社試験基準で測定

△ 注意

- 連続発光を行ったときは発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近に触れないでください。

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近に触れないでください。発光部やバッテリー、バッテリー収納部付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。

① 注意

- 発光制限中にバッテリー収納部ふたの開閉を行わないでください。発光制限が解除されるため大変危険です。
- レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めているときは、発光間隔が長くなります。
- レベル1の警告が表示されたときは、50分以上休止してください。
- レベル1の警告が表示されたあと、発光を休止しても、レベル2の警告が表示されることがあります。
- 〈ETTL〉の発光モードまたは高温下でストロボ撮影を行ったときは、表に示した回数よりも早く発光制限が行われることがあります。
- 発光回数に関する注意については、「[連続発光](#)」、「[マルチ発光](#)」、「[モデリング発光](#)」を参照してください。
- 温度上昇などの環境要因により、まれに発光しないことがあります。
- 「警告表示（レベル1）までの連続発光回数」は、EL-1単体使用時、およびEL-1にコンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売）を併用したときの回数です。CP-E4N以外の外部電源を使用したときは、警告表示までの発光回数が少なくなります。
- パウンスアダプター使用時、カラーフィルター使用時、およびパウンスアダプターとカラーフィルターを同時に併用したときは、警告表示までの発光回数がやや少なくなります。
- P.Fn-06-1設定時は（）、発光制限状態になっても、警告音は鳴りません。
- C.Fn-22-1設定時は（）、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの照明による警告表示は行われません。
- コンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売）使用時は、CP-E4N 使用説明書をあわせてお読みください。

故障かな？と思ったら

- [電源関連](#)
- [通常撮影](#)
- [電波通信ワイヤレスストロボ撮影](#)
- [運動撮影](#)
- [光通信ワイヤレスストロボ撮影](#)

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてストロボをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器で充電できない

- バッテリー残量表示が90%程度より多い場合、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパック LP-ELを使用してください。

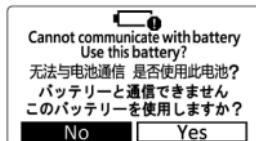
充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります。

[バッテリーと通信できません このバッテリーを使用しますか?] と表示される



- バッテリーパックが故障している可能性があります。故障している場合は、新しいバッテリーパックをお買い求めください。
- 安全のため、純正バッテリーパック LP-ELの使用をおすすめします。
- 通信できないバッテリーパックの使用を継続する場合、安全のためストロボ充電の時間が長くなります。
- バッテリーの出し入れを行ってください (☞)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください (☞)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[バッテリー情報を確認する](#)を参照して、バッテリーの劣化状態を確認してください。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、バッテリーの消耗が早くなります。
 - モデリング発光を何度も繰り返し行う
 - モデリングランプ点灯の状態を長く続ける
 - ワイヤレス機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、カスタム機能画面でC.Fn-01-1に設定してください (☞)。

通常撮影

電源が入らない

- バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください (図)。
- 新しいバッテリーに交換してください。

ストロボが発光しない

- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (図)。
- 約15秒たっても〈CHARGE〉の表示が消えないときは、バッテリーを交換してください (図)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (図) を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、発光間隔が長くなります (図)。
- バッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります (図)。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています (図)。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (図)。

露出アンダー／オーバーになる

- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (図)。
- 画面内に反射率が高いものがあるときは、FEロックを行ってください (図)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッタースピードが高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (図)。

写真の下側が暗い

- 被写体から0.5m以上離れて撮影してください。
- 1m以内の被写体を撮影するときは、バウンス位置を下向き7°にしてください (図)。
- レンズにフードが付いているときは取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 照射角の設定を〈A〉(自動設定)にしてください (図)。
- 照射角を手動設定するときは、撮影画角よりも広い照射角を設定してください (図)。
- C.Fn-21-1に設定されていないか確認してください (図)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で〈Av〉絞り優先AEモードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に（シャッタースピードが遅く）なります。三脚を使用するか、〈P〉プログラムAE、または全自動モードで撮影してください（[④](#)）。なお、「**Avモード時のストロボ同調速度**」で同調速度を設定することもできます（[④](#)）。

照射角が自動設定されない

- 照射角を〈A〉（自動設定）に設定してください（[④](#)）。
- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください（[④](#)）。

照射角が手動設定できない

- パウンスアダプターを取り外してください（[④](#)）。
- ワイドパネルを収納してください（[④](#)）。

機能が設定できない

- カメラの撮影モードを〈Fv〉、〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉、〈bulb(B)〉（応用撮影ゾーン）に設定してください。
- ストロボの電源スイッチを〈LOCK〉ではなく、〈ON〉の位置にしてください（[④](#)）。

モデリングランプが点灯しない

- モデリングランプが点灯しなくなった場合は、30分間休止してください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

電波通信ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーが発光しない／意図せずフル発光する

- センダーを〈(↑) SENDER〉、レシーバーを〈(↑) RECEIVER〉に設定してください (图)。
- センダーとレシーバーの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください (图)。
- レシーバーがセンダーの通信可能範囲内にあるか、確認してください (图)。
- 通信チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください (图)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレシーバーを設置してください。
- レシーバー本体の正面部分をセンダーに向けてください。
- カメラの内蔵ストロボは、電波通信ワイヤレス撮影のセンダーとしては使用できません。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (图)。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈ETTL〉〈Ext.A〉に設定した複数の発光グループを主被写体に向けて発光させないでください (图)。

〈①Tv〉が表示される

- シャッタースピードをストロボ同調最高シャッタースピードから1段遅くしてください (图)。

レシーバーからのリモートトレリーズができない

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70では、レシーバーからのリモートトレリーズはできません。

表示パネル照明が点いたり消えたりする

- レシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センダーの表示パネル照明が点灯／消灯します。「[表示パネル照明について](#)」を参照してください。

連動撮影

標準露出にならない／露出ムラになる

- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。発光させるストロボを1台にしたり、セルフタイマーを使って発光するタイミングをずらすことをおすすめします。

レシーバーカメラとして使用できない

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70と組み合わせたときは、「センダーカメラ」としてのみ使用できます。「レシーバーカメラ」としては使用できません。

光通信ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーが発光しない／意図せずフル発光する

- センダーを〈 SENDER〉、レシーバーを〈 RECEIVER〉に設定してください(④)。
- センダーとレシーバーの通信チャンネルを同じ設定にしてください(④)。
- レシーバーがセンダーの通信可能範囲内にあるか、確認してください(④)。
- レシーバーのワイヤレス受信部をセンダーに向けてください(④)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレシーバーを設置してください。
- センダーとレシーバーの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをセンダーとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラの【内蔵ストロボ機能設定】の画面で【ワイヤレス機能】の設定を行ってください。

センダーが発光する

- センダー発光OFFに設定しても、光通信でレシーバーを制御するため、センダーが発光します(④)。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください(④)。

主な仕様

型式

型式	クリップオンタイプE-TTL II / E-TTL 自動調光ストロボ
対応カメラ	E-TTL II / E-TTL 自動調光に対応しているEOSシリーズ * 詳しくはキヤノンホームページを参照してください (④)。

発光部

通常発光時のガイドナンバー 最大ガイドナンバー（約・ISO 100）		照射角									
配光特性	単位	14mm *1	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	80mm	105mm	135mm	200mm
標準	m	14.0	26.9	27.7	31.9	36.4	42.2	46.1	49.4	52.2	58.0
ガイドナンバーベンチ先	m		31.9	31.9	36.4	42.2	47.5	52.2	54.4	58.0	58.0
配光優先	m		26.9	26.9	26.9	28.2	33.4	36.4	42.2	46.1	49.4

* 1 : ワイドパネル使用時

ハイスピードシンクロ時のガイドナンバー 最大ガイドナンバー（約・ISO 100）		照射角									
シャッタースピード	単位	14mm	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	80mm	105mm	135mm	200mm
1/125	m	8.7	16.7	17.2	19.8	22.6	26.3	28.7	30.7	32.5	36.1
1/250	m	6.9	13.3	13.7	15.8	18.0	20.9	22.8	24.4	25.8	28.7
1/500	m	4.9	9.4	9.7	11.1	12.7	14.7	16.1	17.3	18.2	20.3
1/1000	m	3.5	6.6	6.8	7.9	9.0	10.4	11.4	12.2	12.9	14.3
1/2000	m	2.4	4.7	4.8	5.6	6.4	7.4	8.1	8.6	9.1	10.1
1/4000	m	1.7	3.3	3.4	3.9	4.5	5.2	5.7	6.1	6.4	7.2
1/8000	m	1.2	2.3	2.4	2.8	3.2	3.7	4.0	4.3	4.6	5.1

**マニュアル発光時のガイドナンバー
最大ガイドナンバー（約・ISO 100）**

発光量	単位	照射角									
		14mm	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	80mm	105mm	135mm	200mm
1/1	m	14.0	26.9	27.7	31.9	36.4	42.2	46.1	49.4	52.2	58.0
1/2	m	9.9	19.0	19.6	22.6	25.7	29.8	32.6	34.9	36.9	41.0
1/4	m	7.0	13.5	13.9	16.0	18.2	21.1	23.1	24.7	26.1	29.0
1/8	m	4.9	9.5	9.8	11.3	12.9	14.9	16.3	17.5	18.5	20.5
1/16	m	3.5	6.7	6.9	8.0	9.1	10.6	11.5	12.3	13.1	14.5
1/32	m	2.5	4.8	4.9	5.6	6.4	7.5	8.1	8.7	9.2	10.3
1/64	m	1.8	3.4	3.5	4.0	4.6	5.3	5.8	6.2	6.5	7.3
1/128	m	1.2	2.4	2.4	2.8	3.2	3.7	4.1	4.4	4.6	5.1
1/256	m	0.9	1.7	1.7	2.0	2.3	2.6	2.9	3.1	3.3	3.6
1/512 *1	m	0.6	1.2	1.2	1.4	1.6	1.9	2.0	2.2	2.3	2.6
1/1024 *1	m	0.4	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.4	1.5	1.6	1.8
1/2048 *1	m	0.3	0.6	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3
1/4096 *1	m	0.2	0.4	0.4	0.5	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
1/8192 *1	m	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6

* 1: ハイスピードシンクロ時および光通信ワイヤレス設定時は使用できない

照射角ポジション (35mm フルサイズ時)	14mm	ワイドパネル：手動 * EF15mm F2.8 フィッシュアイとEF8-15mm F4L フィッシュアイ USMの撮影画角には対応していない						
	24mm							
	28mm							
	35mm	ズーム						
	50mm	• A : オート レンズ焦点距離に画面サイズ対応ズームや配光特性の設定を考慮して照射角を自動設定する						
	70mm	• M : マニュアル 照射角を手動で設定する * 画面サイズ対応ズームや配光特性の設定は考慮されない						
	80mm							
	105mm							
	135mm							
	200mm							
バウンス角度	バウンス方向	バウンス角度（約）						
	上	0° *	45°	60°	75°	90°*	120°	
	下		7°					
	左	0° *	60°	75°	90°	120°	150°	180°
	右		60°	75°	90°	120°	150°	180°
* バウンスロックが機能するポジション								

閃光時間	通常発光時			
	発光量	閃光時間（約・秒）	発光量	閃光時間（約・秒）
	1/1	1/920	1/128	1/41670
	1/2	1/1390	1/256	1/51720
	1/4	1/2720	1/512	1/62500
	1/8	1/5220	1/1024	1/83330
	1/16	1/9200	1/2048	1/86960
	1/32	1/15540	1/4096	1/101690
	1/64	1/28300	1/8192	1/130430
色温度情報通信	対応			
カラーフィルター	ハードタイプのカラーフィルター（2種類）に対応			

露出制御

発光モード（露出制御方式）	発光モードと使用可能な機能					
	発光モード	調光補正	FEB	FEロック	ワイヤレス	
					電波通信	光通信
	E-TTL II / E-TTL 自動調光 *1	○	○	○	○	○
	マニュアル発光				○	○
	マルチ発光				○	○
	外部調光オート	○	○		○ *2	
	外部調光マニュアル					
	連写優先モード	○	○	○		
	グループ発光 *3	○	○	○ *4	○	

* 1 : カメラの撮影モードを「かんたん撮影ゾーン」に設定すると自動設定される
* 2 : グループ発光のみ設定可能
* 3 : 電波通信ワイヤレスのセンターで使用時のみ設定可能
* 4 : E-TTL II / E-TTL 自動調光に設定したグループのみ

調光連動範囲	下記条件における調光連動範囲	
	<ul style="list-style-type: none"> 画面サイズ : 35mm フルサイズ 照射角 : 50mm 絞り数値 : F1.4 ISO 100 配光特性 : 標準 	
	発光条件	調光連動範囲（約）
	通常発光 (充電ランプ: 点灯)	0.5~26.0m
	クイック発光 (充電ランプ: 点滅)	0.5~15.9m
	ハイスピードシンクロ (シャッタースピード: 1/250)	0.5~12.8m

調光補正	1/3段、1/2段ステップ*1、±3段
	* ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボの調光補正が優先される。カメラの調光補正を有効にする場合はストロボの調光補正を0に設定する。 * 1 : カメラの露出設定ステップに従う
FEB	1/3段、1/2段ステップ*1、±3段 * 3枚撮影後、FEBは自動解除される * 調光補正やFEロックと併用できる * 1 : カメラの露出設定ステップに従う
FEロック	対応
FEメモリー	対応

	ワイヤレス	発光モード	先幕シンクロ	後幕シンクロ	ハイスピードシンクロ
シンクロ	OFF	E-TTL II / E-TTL 自動調光	○	○	○
		マニュアル発光	○	○	○
		マルチ発光	○		
		外部調光オート	○		
		外部調光マニュアル	○		
		連写優先モード	○	○	○
	電波通信 (センター)	E-TTL II / E-TTL 自動調光	○	○ *1	○
		マニュアル発光	○	○ *1	○
		マルチ発光	○		
		グループ発光	○	○ *1	○
	光通信 (センター)	E-TTL II / E-TTL 自動調光	○		○
		マニュアル発光	○		○
		マルチ発光	○		

* 1 : 使用できるカメラはキヤノンホームページを参照してください。

モデリングランプ	対応
モデリング発光	対応 * 約1秒間、ストロボが連続発光する

ストロボ充電

充電時間	使用電源	充電時間(約)		発光回数(約)
		通常発光	クイック発光	
	バッテリーパック LP-EL	0.1~0.9秒	0.1~0.8秒	335~2345回
* 当社試験基準による				
充電表示	充電ランプ	通常発光(フル充電)	クイック発光	充電中
	赤色点灯	赤色点滅(8Hz)	消灯	
	表示パネル表示	非表示	非表示	CHARGE 充電レベルを5段階で表示
電子音 *1		○ *2	○ *3	=
* 1 : パーソナル機能 (P.Fn-06 : 電子音) をONに設定時 * 2 : パーソナル機能 (P.Fn-02 : クイック発光) をOFFに設定時 * 3 : パーソナル機能 (P.Fn-02 : クイック発光) をONに設定時				

AF補助光

赤外光方式	<ul style="list-style-type: none">• 照射光 近赤外光• 対応AF方式 TTL二次結像位相差AF• 有効距離 <table border="1" data-bbox="267 265 928 358"><thead><tr><th>測距点</th><th>有効距離（約）</th></tr></thead><tbody><tr><td>中央</td><td>0.6~10.0m</td></tr><tr><td>周辺</td><td>0.6~5.0m</td></tr></tbody></table> <p>* レンズ焦点距離：28mm以上 * AFフレーム：1~191点に対応</p>	測距点	有効距離（約）	中央	0.6~10.0m	周辺	0.6~5.0m
測距点	有効距離（約）						
中央	0.6~10.0m						
周辺	0.6~5.0m						
ストロボ間欠発光方式	<p>下記の条件ではストロボ間欠発光方式のAF補助光は動作しない</p> <ul style="list-style-type: none">- 光ワイヤレスのセンターに設定時- カラーフィルター装着時 <ul style="list-style-type: none">• 照射光 可視光• 対応AF方式<ul style="list-style-type: none">- TTL二次結像位相差AF- デュアルピクセルCMOS AF* 対応カメラの制限あり• 有効距離 <table border="1" data-bbox="267 661 928 753"><thead><tr><th>測距点</th><th>有効距離（約）</th></tr></thead><tbody><tr><td>中央</td><td>0.6~10.0m</td></tr><tr><td>周辺</td><td>0.6~5.0m</td></tr></tbody></table> <p>* レンズ焦点距離：24mm以上 * 照射方向：直射</p>	測距点	有効距離（約）	中央	0.6~10.0m	周辺	0.6~5.0m
測距点	有効距離（約）						
中央	0.6~10.0m						
周辺	0.6~5.0m						

電波通信のワイヤレス機能

ワイヤレス設定	センター	対応 • 2台目以降はサブセンターとして動作し、「SUB SENDER」のアイコンが表示される • サブセンターはレシーバーによるリモート制御ができない
	レシーバー	対応
通信機能	準拠規格	IEEE802.15.4、ARIB STD-T66
	通信方式	1次変調：OQPSK 2次変調：DS-SS
	通信周波数	2405～2475MHz
	通信チャンネル	1～15ch 設定：オート / マニュアル
	通信ID	0000～9999 設定：マニュアル
	通信可能距離 *1*2	約30m
	グループ	最大5グループ (A, B, C, D, E) * センターはグループAに設定される
	センター台数	最大15台 * 2台目以降はサブセンターになる
	レシーバー台数	最大15台
* 1：センターとレシーバーの間に障害物がなく、他の機器との電波干渉がない場合		
* 2：配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある		
連動撮影	センターカメラのレリーズに連動して最大16台（センター：1台、レシーバー：15台）のカメラを自動リリースさせる連動撮影が可能 * センターカメラのレリーズタイミングよりも、少し遅れてレシーバーカメラがレリーズするので、同時に撮影されない	

光通信のワイヤレス機能

ワイヤレス設定	センター	対応
	レシーバー	対応
	単独レシーバー	対応
通信機能	通信方式	光パルス通信
	通信チャンネル	1～4ch
	発光部正面にて	
	通信可能距離 (約)	• 屋内：0.7～15m • 屋外：0.7～10m
	受信角 (約)	• 左右：45° • 上：27°、下：20°
	グループ	最大3グループ (A, B, C)
	センター台数	制限なし
	レシーバー台数	制限なし

電源

電池	バッテリーパック LP-EL * 単3形アルカリ乾電池 / ニッケル水素電池は使用できない		
残量表示	対応（5段階表示）		
外部電源	対応		
発光可能回数	約340～2380回 * フル充電のバッテリーパック LP-EL使用時		
電波通信ワイヤレス撮影可能時間	連続約17時間 * センダー発光OFF、フル充電のバッテリーパック LP-EL使用時		
オートパワーオフ	無操作状態で電源がOFFになる時間		
	状態	カスタム機能	時間
	通常時	C.Fn-01-0	約90秒
	光通信ワイヤレス・センター設定時	C.Fn-01-0	
	電波通信ワイヤレス・センター設定時	C.Fn-01-0	約5分
	連動撮影時	C.Fn-01-0	
	電波通信 / 光通信ワイヤレス・レシーバー設定時	C.Fn-10-0	約60分
		C.Fn-10-1	約10分
	レシーバー設定時にオートパワーオフから電源ON可能な待機時間	C.Fn-11-0	約8時間
		C.Fn-11-1	約1時間
下記の操作でON状態に復帰する			
<ul style="list-style-type: none"> カメラのシャッターボタンを半押しする テスト発光ボタンを押す 			

大きさ / 質量

大きさ	製品	幅×高さ×奥行（約）
	本体	84.4×149.0×136.4mm
質量	製品	質量（約）
	本体のみ	566g
本体 + 電池 (バッテリーパック LP-EL)		681g

動作環境

使用可能温度	0～45°C
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計しておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

① 注意

- バッテリーパック LP-ELは、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

電波通信ワイヤレス機能について

無線機能について

電波干渉に関するご注意

無線機能について

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。
- 無線機能が使える国や地域について
 - 無線機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられことがあります。そのため、無線機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。(モデルナンバーは、DS401231です。) なお、それ以外の国や地域で無線機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。
- 次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解、または改造すること
 - 本製品上の証明ラベルをはがすこと
- 医療機器や電子機器の近くでは、本製品の無線機能は使用しないでください。無線機能が医療機器や電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。



この表示は、2.4GHz帯を使用している電波通信機器であることを意味します。

本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。